

# 第44回ユネスコ子どもキャンプ報告書



## そうぞう



はあすちゃん

### ～心に橋をかけよう～



**日時** 2012年8月9日(木)～12日(日)

**場所** 山口県ふれあいパーク(山口県岩国市由宇町)

**主催** 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

山口県ユネスコ協会連盟

岩国ユネスコ協会

**共催** 岩国市教育委員会

**後援** 文部科学省

日本ユネスコ国内委員会

山口県教育委員会、岩国市

**協力** 学校法人藤谷学園 岩国南幼稚園

山口県東部ヤクルト販売株式会社

Seeds (シーズ)



# キャンプテーマソング

♩ = 140  
心に橋をかけよう

ひるがるー あおぞらーはー  
あし たへどー つづいてーるー  
そらのー むこうーがーおにー きつ  
とーすてき なであいが あーるよー  
こわくーてー ふあんーでー つらくーてー  
きびしくーてー ひとりーな やんでるときーもー  
みんな でてき とりあえーばー え  
がおがー あふれてく るよー  
みんなのー そーうぞうーのー ちからーをー  
ひ と つ にーしてー  
のーあおぞらーのー キャンパスーにー  
てきなーあしたを えがーこ う  
あ み んーなでーて あつ な 夢 あおーう 夢  
あ こ こーろにー は し  
う

第44回ユネスコ子どもキャンプ テーマソング

「心に橋をかけよう」

作詞 河杉祐太郎（実行委員）  
作曲 松浦 慎（奈良ユネスコ協会）

広がる青空は 明日へとつづいてる  
空の向こう側に

きつとすてきな出会いがあるよ

怖くて 不安で 辛くて 寂しくて

ひとり 悩んでるときも

みんなで 手をとりあえば

笑顔が あふれてくるよ

みんなの そうぞうの力を ひとつにして

この 青空の キャンパスに

すてきな明日を えがこう

さあ みんなで 手を つなぎあおう

さあ 心に 橋をかけよう

※（繰り返し）

# 目次

関係者挨拶	p 4
実施要項	p 8
キャンプテーマ	p 9
キャンプ日程	p 10
組織と実行委員	p 11
スタッフ役割分担	p 12
カウンセラーとテント配置	p 13
キャンプ場と施設	p 14
プログラムの記録	p 17
みんなのページ	p 22
スタッフメッセージ	p 34
スタッフ研修会	p 38
プレキャンプ	p 41
キャンプの反省	p 46
実行委員会の記録	p 48
バックアップ隊紹介	p 55
ありがとうのページ	p 59
編集後記	p 60





## ごあいさつ

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟  
理事長 野口 昇

去る8月9日から12日まで山口県で開催された第44回ユネスコ子どもキャンプは、全国各地から100名を越える子どもたちと青年リーダーの参加を得て、無事成功裏に終了することが出来ました。

開催にご協力いただきました岩国市教育委員会をはじめとする関係者の皆さま、並びに実際の運営に当たりましたユネスコ子どもキャンプ実行委員会、山口県ユネスコ協会連絡協議会、岩国ユネスコ協会の皆さまに心より御礼申し上げます。

今年のキャンプでは、「そうぞう～心に橋をかけよう～」という、人と人とのつながりを大切にするユネスコならではのキャンプテーマのもと、開催されました。錦帯橋についての地域遺産ワークショップや、米軍岩国基地内のペリースクールの生徒との交流会など、開催地岩国の特色を生かしたプログラムとなり、参加した子どもたちにとっては、忘れがたい夏の思い出となったことと存じます。

最後になりましたが、ユネスコ子どもキャンプに参加された皆さんが、キャンプで学んだユネスコの理念を大切にしながら、健やかに成長されることを心より願っております。



## 第44回ユネスコ子どもキャンプによせて

山口県ユネスコ協会連盟  
会長 村田 昌志

“そうぞう——心にはしをかけよう”のテーマのもとに、8月9日から12日までの3泊4日にわたって、山口県岩国市でユネスコ子どもキャンプを開催しました。このキャンプに、全国から111名の子どもたちが参加し、それを支える約100名のカウンセラーを始めスタッフ、関係者との間に心のはしがかかり、無事に成功裏に終了できましたことは、主催者として大変光栄であり、心からお礼申し上げます。

キャンパーのみなさんは、野外生活を通じて、仲間との貴重な時間や体験を共有し、友情や協働の精神を学び、人と人とのコミュニケーションの大切さを体得出来たことと思います。キャンプで養われた力こそこれからみなさんに社会で必要とされるものです。これからの世界は若いみなさんを求めています。キャンプでの経験をこれからの生活に十分に活かしていただき、仲間を信じ、平和を愛し、自ら行動できる人間としての活躍を心から期待しています。

また、このキャンプを企画・運営していただいた実行委員の方々や、スタッフのみなさん、そして物心両面にわたり準備段階から修了後までご支援をいただきました大変多くの方々に、心から感謝申し上げます。

みなさんのご理解とご協力なしには、キャンプの成功はあり得ませんでした。重ねて厚くお礼申し上げます。

世界には、まだまだ紛争の火種が絶えず、この瞬間にも命の危険にさらされている多くの人たちがいます。争いのない平和な世界こそユネスコの目指す精神です。このキャンプで育ってくれた子どもたちが、将来は必ず持続可能な社会の一員として、世界平和の構築の担い手となって活躍してくれることを、みなさんと共に期待し、お礼のごあいさつとします。

## 第44回ユネスコ子どもキャンプ in 岩国

——みなさん、ありがとうございました。

岩国ユネスコ協会  
会長 岡崎天隆

歴史と伝統のある「ユネスコ子どもキャンプ」を岩国で開催でき、キャンパーの小・中学生のみなさんを始め、大変多くの方々と喜びや苦しみを分かち合うことが出来たことは、主催者の一員であります岩国ユネスコ協会にとりましては得難い素晴らしい経験となり、また新たな歴史を刻むことが出来たことに心からお礼申し上げます。

全国各地から参加いただいた小・中学生のみなさんには、初めて出会う仲間の人たちと、コミュニケーションを図りながら、相手を認め、思いやりと協力の精神を学び取っていただき、争いのない世界を作り出していくにはどんなことを想像し、それをみんなで実際にどう創造していけばいいかを体験できた3泊4日であったならば、主催者の一員として大変うれしく思います。

キャンププログラムは、野外炊飯などの他に世界遺産登録を目指している錦帯橋の模型づくり、岩国基地内の小・中学生との国際交流等を含んだ岩国ならではの内容にもなりましたが、最後まで一生懸命に取り組んでいただいたことにお礼申し上げます。

実行委員の方々、そして全国各地からのスタッフのみなさん、みなさんの情熱と愛に支えられてキャンプがスムーズに展開しました。みなさんにはこれからの世界平和を築いていく大きな心と力を感じ取りました。

地元岩国市・岩国市教育委員会、山口県教育委員会、岩国西ロータリークラブ、県内のユネスコ関係の各団体・組織を始め、臨機応変に対応していただいた会場の山口県ふれあいパーク、裏方業務に専念の方々、バスの便の提供をいただいた岩国南幼稚園、竹細工品等の準備などシーズの会、朝の飲み物を提供していただいた東部ヤクルト販売(株)、また郷土料理岩国寿司を準備していただいた遊巣の会、地元婦人会の方々など、その他にも数え上げられないくらいの大変多くの方々からのご支援に改めまして厚くお礼申し上げます。キャンプが成功裏に終了出来たのは本当に皆様のご支援ご協力があってこそのものでした。

また、日本ユネスコ協会連盟を始め、昨年実施の奈良ユネスコ協会や昨年の経験者のみなさんが、何回かの事前のプレキャンプに、わざわざ遠くから駆けつけていただきご指導をいただいたことも大変心強くありがたく思いました。

なお、募集定員の2倍に当たる約200名の方々から申し込みをいただきながら、安全面等運営上の課題から全ての方々のご希望に応えられず、心からお詫び申し上げます。

来年は東京で予定されているこのキャンプの成功を心から祈念しますとともに、お世話になりました全ての方々に再度心から感謝し申し上げ、お礼のごあいさつといたします。



## ユネスコ子どもキャンプを終えて

第44回ユネスコ子どもキャンプ  
実行委員長 弘中寛之

去年の終わりごろに実行委員会が発足され、それから半年以上をかけて今回のユネスコ子どもキャンプを作り上げました。半数以上が学生であり、また、ほとんどが子どもキャンプを経験したことのない中、成功することを目指して進んで来ました。テーマを決めるために何度も会議を開き、プログラムを決めるときに様々な意見が飛び交っていました。そんな中で「そうぞう〜心に橋をかけよう〜」というテーマを中心に、このキャンプを作り上げてきました。

今回のキャンプのテーマでは、人と人とのつながりを考えたものであり、日常生活につながるテーマであったと思います。様々な「想い」を考える「想像」、そして、「創り出す」といった「創造」を私たちは常に行っていると思います。人との関係を「そうぞう」することや、技術の進歩に伴いより便利なものを「そうぞう」といったことだけでなく、自分たちの将来についても「そうぞう」していることだと思います。

そうした中で、ただ周りが動くのを待つのではなく、少しでも自分から「そうぞう」し、つながりを作ることでできるようになることが、これからの社会で必要になると思います。このキャンプが、そのような「そうぞう」をすることのきっかけになれば、という想いがありました。

このキャンプを通して、人とのつながりというものがいかに素晴らしいものであるかを実感しました。短い時間ではありますがキャンプの中で支え合って生活すると、強い絆で結ばれ、その関係が続くことによってだんだんと大きな人の環になっていくように思えます。

住んでいる地域や職業、年齢の異なった人が集まり「そうぞう」することによって、このキャンプは完成していきます。そうやって、多くの人と協力して一つの事柄を成し遂げようとするのもこのキャンプの魅力であり、これからも続けていく必要のあるものでしょう。

来年のキャンプは東京都で開催されます。次のキャンプに参加することによって、今回得ることのできた人とのつながりはもっと大きく、強いものになると思います。来年、東京都で皆さんに会うことを強く希望します。

最後になりましたが、本キャンプの開催にあたって、後援・協賛して下さった関係機関の皆様方に改めてお礼申し上げます。

# 実施要項

テーマ そうぞう ～心に橋をかけよう～

**目的** 自然環境の中での集団生活を通して、子どもたちが生命の大切さに気づき、思いやりの心を育て、みんなで協力して生活することの楽しさを経験することによって、ユネスコ精神を学び世界平和への心を養うことを目的とする。

**日時** 2012年8月9日～8月12日 3泊4日

**場所** 山口県ふれあいパーク  
〒740-1432 山口県岩国市由宇町字深山2273-2（錢壺山山頂）  
TEL：0827-63-1513 FAX：0827-63-1558  
ホームページ：<http://www10.ocn.ne.jp/~furepaku/>

**主催** 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、山口県ユネスコ協会連盟、岩国ユネスコ協会

**共催** 岩国市教育委員会

**後援** 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、山口県教育委員会、岩国市

**協力** 学校法人 藤谷学園 岩国南幼稚園、  
山口県東部ヤクルト販売株式会社、**Seeds**（シーズ）

**参加対象** 小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒

**募集人数** 100名

**費用** 13,000円

（食費や傷害保険料、キャンプ資料、記念品等を含みます。）

## プログラム内容

野外炊事（飯ごう炊飯他）、ナイトハイク、天体観測、ペリースクール（米軍岩国基地内学校）の児童生徒との交流、錦帯橋1/5模型作りと錦帯橋巡り等

## 《キャンプ生活について》

子どもたちは10名程度の班に分かれ、野外生活（野外炊事・テント宿泊）をします。各班には複数のカウンセラースタッフがつき、プログラムの進行や生活面での指導にあたります。子どもたちは班生活の中で、いろいろな役割を分担します。子どもたちの健康管理は、看護師が行います。プログラム全体は、日本キャンプ協会の公認インストラクターを中心に、キャンプスタッフ研修会を受講した青年等によって管理運営されます。

## キャンプスタッフ参加要項

**【対象者】** ネスコ協会会員もしくは子どもキャンプの趣旨に賛同し、協力を希望する15才（高校1年生）以上の青年

**【募集人員】** 50名程度

**【仕事内容】** 参加児童・生徒の生活指導ならびにキャンプの運営

**【期間】** 2012年8月8日（水）～8月12日（日） 4泊5日

**【費用】** 13,000円（8月8日の事前研修費及び宿泊費等を含む）

※集合場所までの交通費は各自で負担。

**【プレキャンプ日程】** 6月9日（土）・10日（日） 1泊2日



## そうぞう ～心に橋をかけよう～

“そうぞう” ……

あなたは今何を頭に思い描いたのだろう。 そう、それが“想像”。  
そうしてあなたはいったい何を表現するのだろう。 そう、それが“創造”。

あなたはどんなとき、想像(そうぞう)をみんなと分かち合えますか？

どうしてあなたは笑っているの？ 泣いているの？ 怒っているの？  
でも少し、“想像”してみてください。 そこから何かを感じ取れるはず。  
そうすればきっと、みんなの笑顔があふれるよ。

新たな出会いや環境に、とまどうことばかりかもしれない。  
でも少し、“そうぞう”してみてください。 みんなだってドキドキしてるんだ。  
そうすればきっと、一步を踏み出す勇気がわいてくるよ。

あなたはどんなとき、創造(そうぞう)をみんなと分かち合えますか？

みんなの中でキラキラ輝くそのアイデアを、  
思い切ってぶつけてみて。 がんばって、表現してみてください。  
そうすれば、たとえ小さな輝きでも、  
みんなの“創造”が集まって、大きな光が生まれるよ。

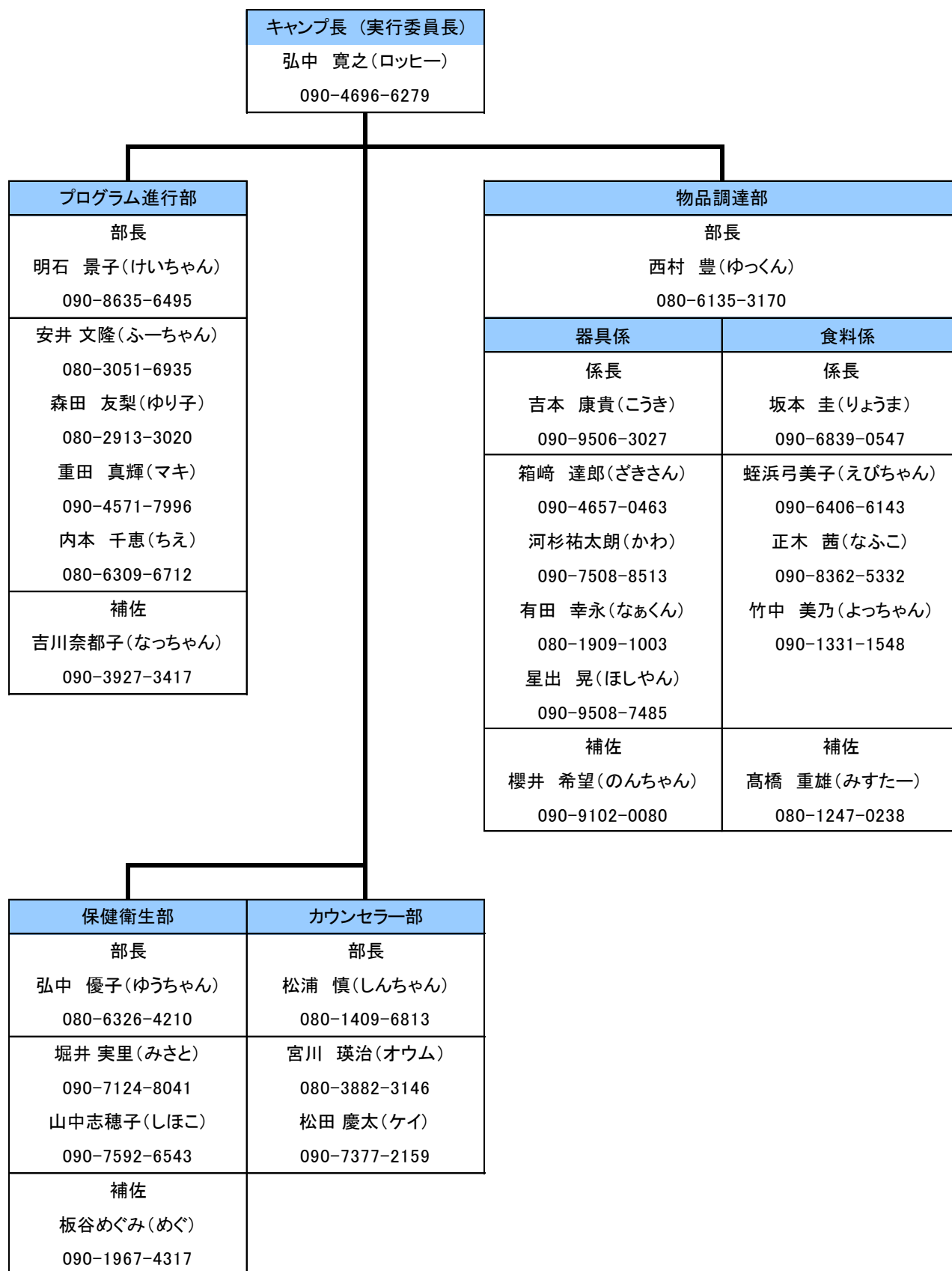
いろんなほくと、いろんなきみとで、たくさんの心に橋を架けよう！  
相手の気持ち、感じてみよう。 自分で、仲間で、新たな何かを築いていこう。  
そうすれば必ず、一回り大きくなった自分がそこにいるはず。

岩国の地で、たくさんの驚きや発見がみんなを待っています。  
このひと夏に、最高の思い出を作りましょう！

# キャンプ日程

時間	8月9日(木)	8月10日(金)	8月11日(土)	8月12日(日)
6:30		起床	起床	起床
7:00 30		朝食 (野外炊事)	朝食作り	朝食
8:00 30			錦帯橋 1/5 模型作り	片付け
9:00 30		班タイム		そうぞうの集い (思い出作り製作)
10:00 30		ペリースクール 歓迎セレモニー	錦帯橋へバスで出発	
11:00 30		昼食作り (野外炊事)	錦帯橋到じか着	閉会式
12:00			昼食(岩国寿司)	解散
13:00 30	受付開始		ふれあパーク移動	 <メモ>
14:00 30	開会式 アイスブレーキング	交流会	夕食作り (野外炊事)	
15:00 30	班タイム			
16:00 30	テント設営	写真撮影 ペリースクールお別れ		
17:00 30	夕食作り (野外炊事)	夕食作り (野外炊事)	入浴	
18:00 30				
19:00 30	入浴		そうぞうの集い キャンプファイヤー	
20:00 30		入浴 ナイトハイク		
21:00 30	振り返り	振り返り	ありがとうの集い 就寝準備	
22:00	就寝	就寝	就寝	

# 組織と実行委員



## スタッフ役割分担

キャンプ長	所 属		役職(備考)
弘中 寛之	男	大学生	(実行委員長)

カウンセラー長			
松浦 慎	男	大学院生(奈良ユ協)	部長

物品調達			
西村 豊	男	社会人	部長
櫻井 希望	男	社会人(三木市ユ協)	補佐(下)
高橋 重雄	男	社会人(杉並ユ協)	補佐(上)
器具			
吉本 康貴	男	大学生	係長
箱崎 達郎	男	社会人	炊事場下
河杉 祐太郎	男	社会人	炊事場上
有田 幸永	男	社会人	お茶
食料			
坂本 圭	男	高校生(広大付属)	係長
蛭浜 弓美子	女	社会人	炊事場下
正木 茜	女	大学生	炊事場上
竹中 美乃	女	社会人	
星出 晃	男	社会人	
当日スタッフ			
横田 創	男	社会人(松山ユ協)	
中田 敦也	男	奈良ユ協	
本堂 方人	男	高校生(広大付属)	
佐藤 隆士	男	大分ユ協	
首藤 杏子	女	大分ユ協	
河村 和紀	男	高校生(広大付属)	
小暮 強志	男	渋谷ユ協	

プログラム進行	所属		
明石 景子	女	大学生	部長
吉川 奈都子	女	社会人(奈良ユ協)	補佐
森田 友梨	女	大学生	
安井 文隆	男	高校生(広大付属)	
重田 真輝	女	高校生(高水)	
内本 千恵	女	高校生(高水)	

保健衛生			
弘中 優子	女	大学生	部長
板谷 めぐみ	女	奈良ユ協	補佐
堀井 実里	女	大学生	
山中 志穂子	女	大学生	



# カウンセラー(班つきスタッフ)とテント配置

カウンセラー長 松浦 慎(奈良ユ協)

班	氏名	所属	班	氏名	所属
1	肥後 祐亮	社会人	2	稲葉 匠	大学生
	藤田 さおり	大学生		泉山 愛美	大学生(厚木ユ協)
	山崎 美優	高校生(出雲)		松田 愛理	高校生(高水)
3	落合 大悟	大学生(厚木ユ協)	4	芝本 壮	大学生(奈良ユ協)
	平野 真由	大学生(三重大学)		國分 晶菜	大学生
	長谷 有起	高校生(広大付属)		晝田 信一郎	高校生(高水)
5	小田 晋太郎	社会人(延岡ユ協)	6	富島 佳	奈良ユ協
	青山 仁美	大学生(奈良ユ協)		小川 舞由子	大学生
	窄口 かすみ	高校生(高森)		小原 佳奈	高校生(高森)
7	松井 大	大学生(奈良ユ協)	8	宮川 瑛治	高校生(高水)
	佐藤 遥奈	大学生		浅野 由莉	社会人
	好中 奈々子	高校生(高水)		平野 菜々美	高校生(伊丹)
9	水津 啓介	大学生	10	永野 達也	大学生
	朝井 理沙子	渋谷ユ協		柴崎 早理恵	大学生(杉並ユ協)
	吉本屋 智弘	高校生(高水)		宮田 百合恵	高校生(高水)
11	畑岡 寛	大学生	12	松田 慶太	高校生(高水)
	小崎 好美	社会人(松山ユ協)		芝田 萌	大学生(柏ユース)
	涌本 真由	高校生(西宮)		西城 玲菜	高校生(埼玉)

## テント設営計画

テントサイト	テント設営可能数	利用班	テント設営数	子どもテント	スタッフテント	
					MD警備用	カウンセラー宿泊用
A	2	1班	2	2		
B	4	食事場所として利用	0			
C	4	2班	2	2		
D	10	3班、4班、5班、スタッフテント2	8	6	1	1
G	6	×	0			
				10	1	1
E	7	6班、7班、8班、スタッフテント1	7	6		1
F	3	9班、スタッフテント1	2	2		
I	8	10班、11班、12班、スタッフテント1	7	6		1
				14	0	2

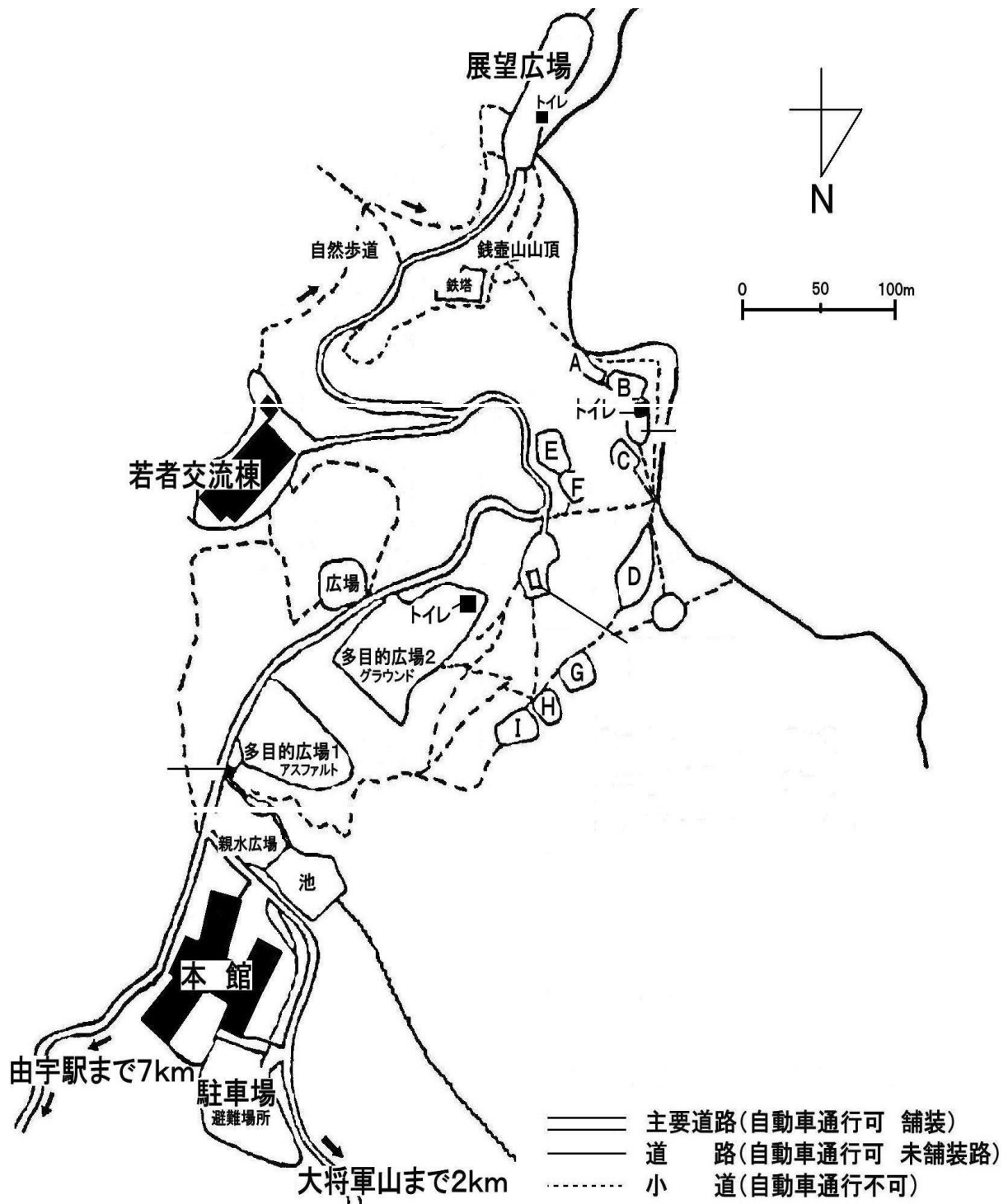
### 備考

MDは、毎晩2人体制で一晩中テントサイトを回って見守る。(寝ずの番)

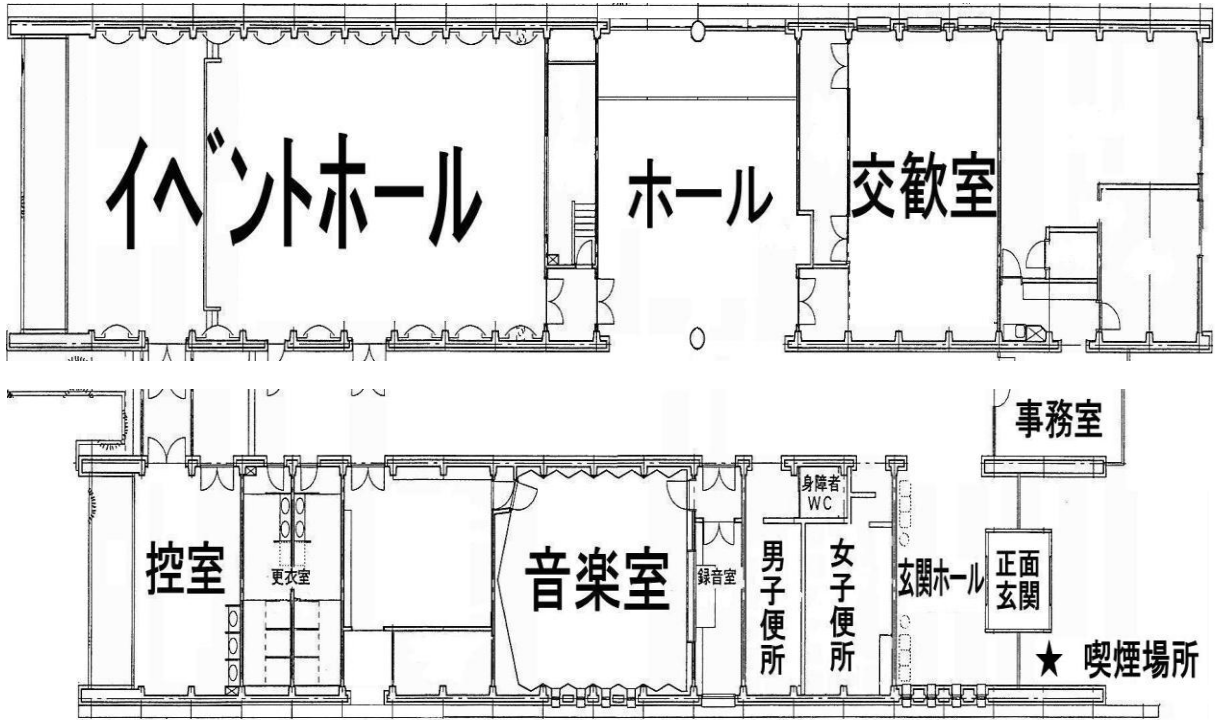
カウンセラーは、4人/テント×3=12人体制で、テントサイトで寝て、異常に備える。

各班からテントに宿泊するカウンセラーを毎晩1名選出。(ただし、性別はカウンセラー間で調整。)

# キャンプ場と施設



若者交流棟



本館

集団宿泊室 × 5



1階





# プログラムの記録

## 1日目

### 14:00～16:00 開会式～班タイム

開会式までの受付では、キャンプ会場の施設を考慮して、子どもを保護者から預かり式場に誘導する係、班のメンバーを式場で出迎える係に分かれてお出迎えをしました。カウンセラーの迅速な動きにより、滞りなく受付が終了。いよいよキャンプ開始です。開会式はふれあいパーク内の若者交流棟・イベントホールで行いました。開会式終了後には記念写真を皆でパシャリ！その後はプログラムの



の流れの紹介やテーマソング発表、スタッフ紹介をしました。班タイムでは、各班のカウンセラーを中心に子ども達が打ち解けられるよう、自己紹介やゲーム等をして交流をしました。

テント設営では7か所に分かれ、1班2張りずつ皆で協力してテントを設営しました。



### 17:00～22:00 野外炊事～就寝

野外炊飯の片付けが早かったグループの順に入浴しました。入浴ができる施設まで片道約15分程かかってしまうため、今回の

キャンプ中時間の確保が一番難しいところでした。入浴後は各班に分かれて昼間できなかった各班の旗作りやその日の振り返りを行い、一人ずつその日の思いを“そうぞうの橋”に描き込んでいました。振り返りでは十分な時間が取れず、慌ただしく時間が過ぎ就寝になりました。



### 22:30～ 反省会～就寝

各班カウンセラーをテントサイトに残し、その人たち以外で反省会を行いました。子ども達が寝た後に残りのカウンセラーも集まり、反省会の内容を伝えていました。実行委員だけの反省会も行いました。

## 2日目

### 8:45~10:30 班タイム~ペリースクール生とのアイスブレーキング

班タイムでは、遊びに来るアメリカのお友達をどの様に迎え入れるかを話し合い、少しでも楽しく交流をするためにはどうしたらよいか意見を出し合いました。そして歌を歌って楽しい雰囲気を作り、歓迎セレモニーを行いました。各班 2~3名のお友達を迎え最初はお互いに戸惑いながら交流をしていた様子ですが、アイスブレーキングでの「キャッチ」や「折り紙」を通し徐々に打ち解けて交流していました。



### 14:00~16:00 交流会~お見送り

交流会ではまず2グループに分かれて水鉄砲作りとゲームを行いました。水鉄砲作りは部品を組み立てるだけの状態まで下ごしらえをしておきました。アメリカのお友達はもちろん日本の子ども達でも作った事の子が多く皆興味津々で自分だけの水鉄砲を作ることに夢中でした。一方ゲームでは班対抗戦の段ボール列車をしたのですが、2人1組が上手に体を入れ、前に進み白熱した交流となりました。人間知恵の輪でも皆で一つの目標に向かってゲームを楽しんでいました。次にグラウンドへ移動し、自分で作った水鉄砲を使ってゲームをしました。紐からティッシュで吊るしたお菓子をねらい、撃ち落とすのです。なかなか当てるのが難しいようでしたが、皆楽しんでいました。





## **20:00~21:30 ナイトハイク**

ナイトハイク開始直前に雷警報が発令された為、一時活動進行を中止し様子を見ました。その後活動再開がされ、子ども達は星空観察や影絵等暗闇でこそ楽しめる時間を満喫していました。



## **3日目**



## **8:00~11:00 錦帯橋模型作成**

早朝の4時頃から雷が鳴り始め、その後叩きつけるような強い雨が降りました。一部のテントで雨漏りが始まったため、早目に子ども達を起こして交流棟へ避難しました。そんなドタバタはあったものの、ほぼ時間通りに活動を開始。岩国市の世界遺産推進室の方々のご指導のもと、皆で錦帯橋の模型を完成させることができました。どの様に錦帯橋が組

まれているのか、皆興味津々に取り組んでいました。

## **11:00~13:50 錦帯橋見学、昼食**

バスを利用しての移動の際、相互の連絡がうまくとれず、全員が出発するまでに時間がかかり、予定より約1時間遅れで錦帯橋に到着。観光ボランティアガイドの方々の説明を受けながら、錦帯橋を堪能しました。



昼食は岩国ならではの岩国寿司。「遊楽の会」の方々によって美味しいお寿司をいただくことができました。朝からバタバタしていたので、子ども達もほぼ完食でした。



## 一方そのころ・・・



キャンプ場に残留したスタッフによる夕食の準備が着々と行われていました。

## 19:00～21:30 キャンプファイアー

各班とも時間のない中でスタuntsを考え、見事に素晴らしい発表をしてくれました。スタuntsの合間に行ったレクでも皆の笑顔があふれ、楽しい時間を過ごす事ができました。ファイヤー後は各班で振り返りを行いそれぞれの思いを伝えあいました。



## **4日目**

### 8:30～12:00 施設清掃～閉会式・さよならの集い

朝食後、使用した施設の清掃を行った後、班タイムを設け“そうぞうの橋”を完成させてもらいました。その後思い出作り製作として班ごとに分かれ、思い思いの記念品を作りました。







前の活動が少し押ししてしまったため、少し忙しい閉会式・さよならの集いとなってしまいました。しかし短い時間でしたが、皆でテーマソングを歌い、このキャンプを通しての喜びをしっかりと伝え合いました。

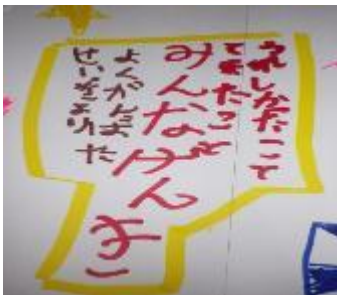
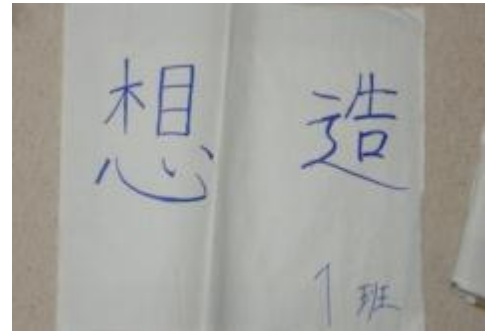
駐車場で、最後にもう一度みんなで一緒にテーマソングを歌い、スタッフと最後のお別れをしました。

子ども達が「楽しかった」と笑顔で帰ってくれたことが一番の喜びです。



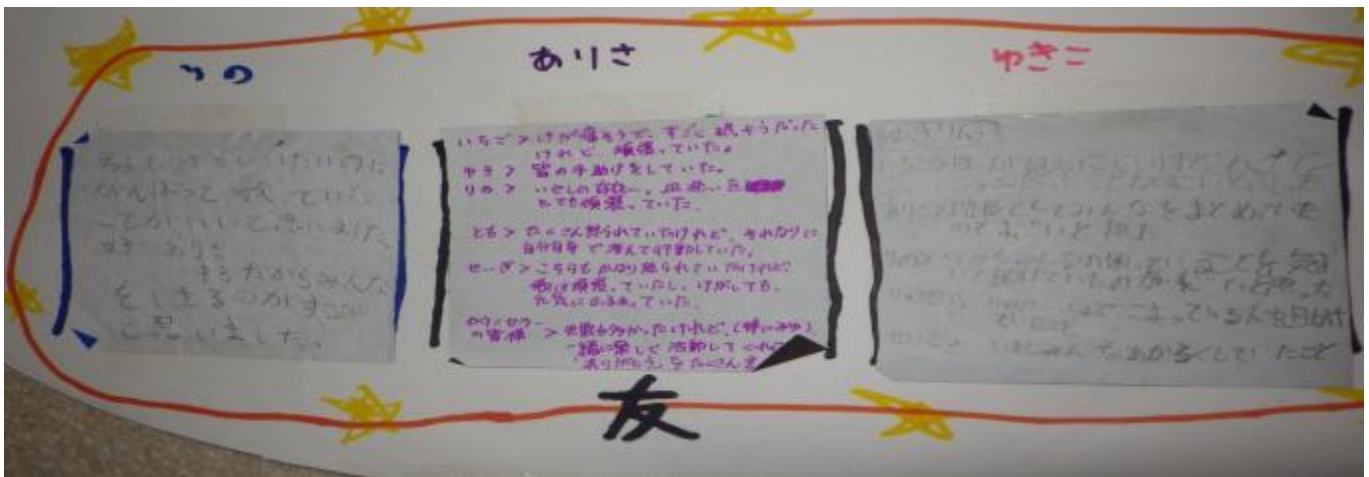
# みんなのページ

# 1班



あり  
みんな  
あんなう、みんな  
たーせんけん  
みんなのこと  
なつたのさ。

1班のみんなががんばって  
た。ともやがみんなおこしさがん  
ばっていった。いすごのみんなが  
はれているときりごごが  
がんばっていた。さっちゃん  
がたのしかた。マオシマン  
とあそびたのがたのしかった。  
リョウセイがたのしかった。



ありがたがみんなのみんな  
をみんなとばたしていった。  
あゆむがみんなのみんな  
がみんなと歩いていった  
みんなのみんなのみんなと  
てもよかた。  
とモヤ







# 2班

相目 増心

昨日の  
キャンプファイヤー  
は感動しました。  
またやりたくな  
いと思います。

今日の日中は暑いけど  
お昼に食べたものがおいしい  
たのしかった。おもしろい  
ゲームもたくさんあった。  
楽しかった。

1日目はテントでもな  
かなかぬれなかつたり  
いろんな大変なことが  
あったけど、皆と友達  
になれてよかった。

とてもいい思い出が  
できたからよかったと思っ  
た。

大居 恭子

わたしはみんなと  
キャンプファイヤーをし  
たのが一番楽しか  
たです。

かりん

今日はキャンプファイヤー  
でみんなと仲良くして  
たのしかったです。  
おもしろいゲームも  
たくさんありました。

あかり

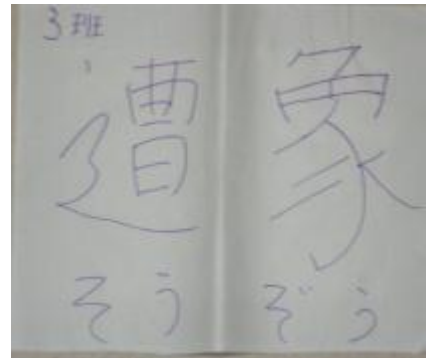
今日の日中は暑いけど  
お昼に食べたものがおいしい  
たのしかった。おもしろい  
ゲームもたくさんあった。  
楽しかった。

ポリースクール  
の子供達と家族  
で良かった。おもしろい

この3日間を通して  
最初におどろき  
したけど、今  
もうくせんと  
なりました。

テントをつら  
たたりへんた  
たけど、たの  
しかった。お  
もしろい

# 3 班



シチューのほろ菜ときるのがたのしかった。  
ハセが食べたいときおいていた。  
ハセがみんな声を出していた  
ひとみ



キャンプファイヤーが一番ハセが盛り上がりた。ハセの持ったカエルの人形で遊んだのが楽しかった。二日目の夕飯シチューがおいしかった。ほのか

自分で作ったごはんがおいしかった。かたしにかたしたやさしいもおいしかった。自分で作ったからだからおいしいと思ってる。



ハセの顔にキリギリスがつかまわさかえりのおふくをこいた  
キャンプファイヤーのときハセがみんなをこわして泣いた

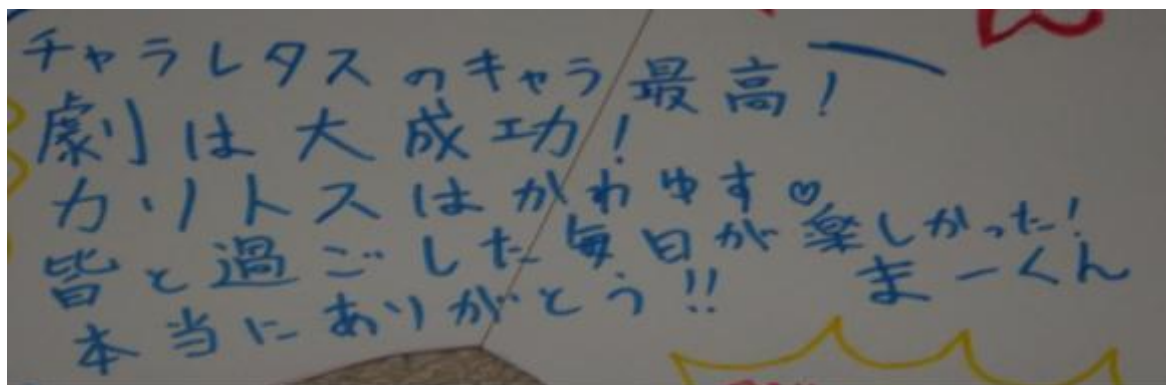
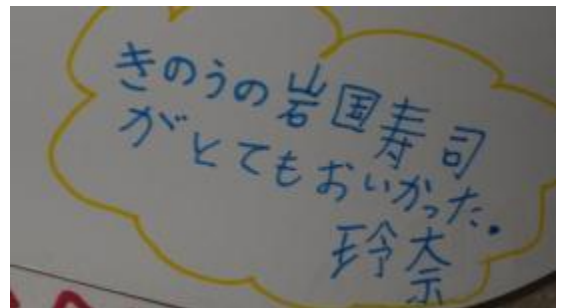
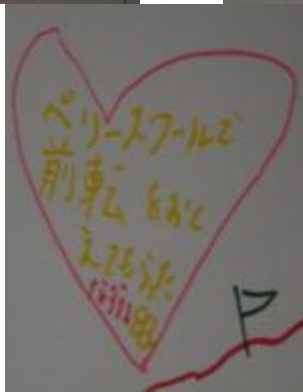
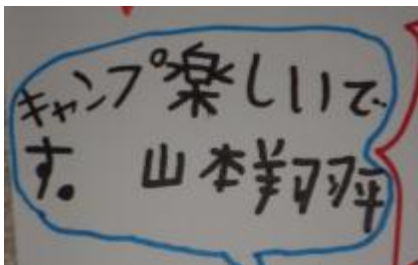
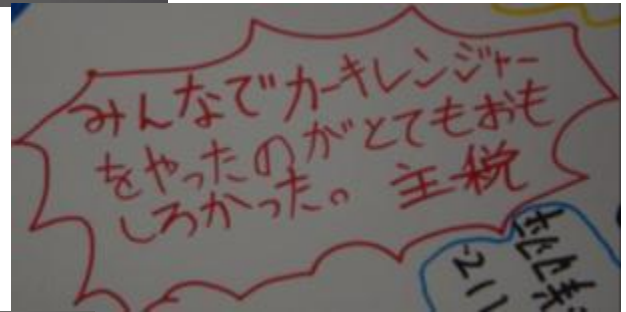
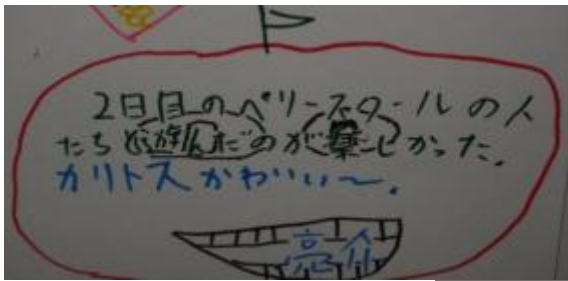
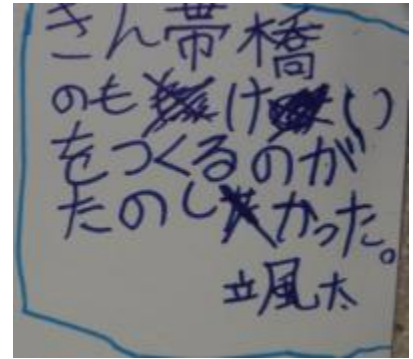
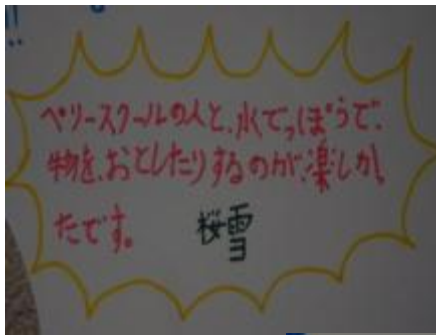
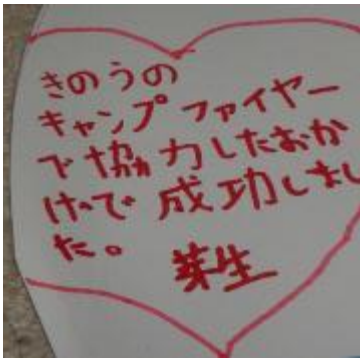
•きんたい木高のくふうがおもしろかった。  
•ナイトハイクのとき星を見ることが楽しかった。  
•みんなで作ったごはんはとておいしかった。

ハセのよにキリギリスがついた。  
ジョリジョリウイーンがたのしかった。

ハセがカエルのポーズをしておもしろかった。みんなナイトはいくで、星を見た時あまり見られないうのでいいな。みんなをこわす。

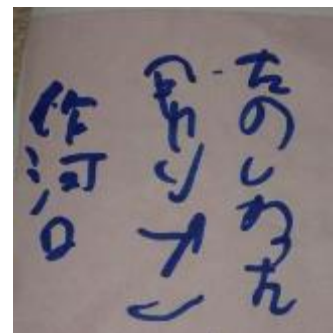
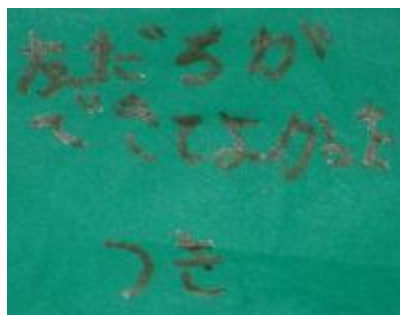
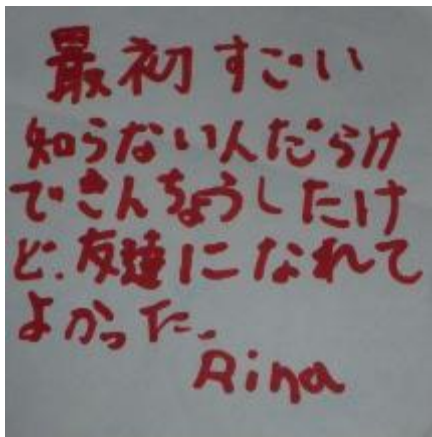
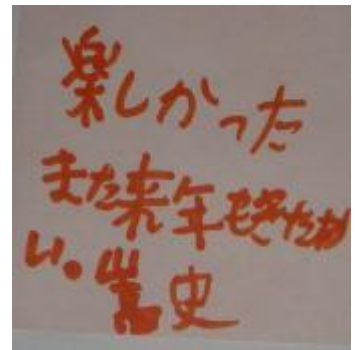
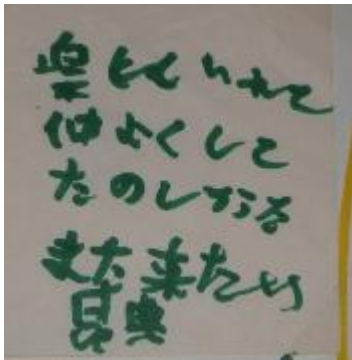
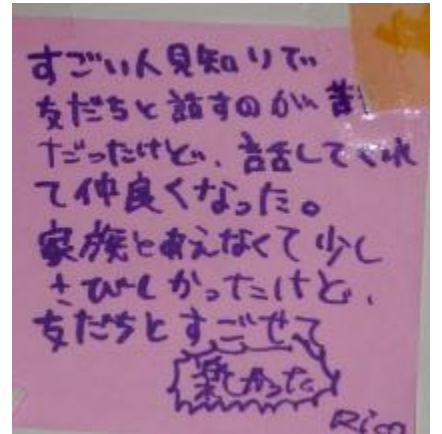


# 4班



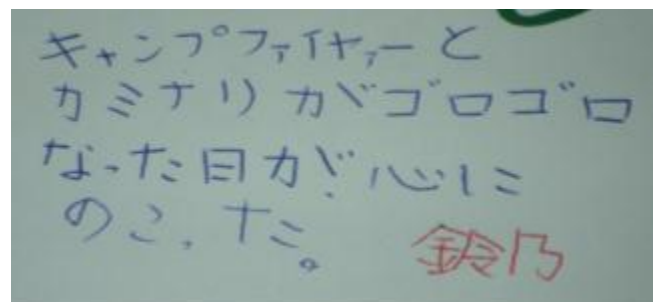
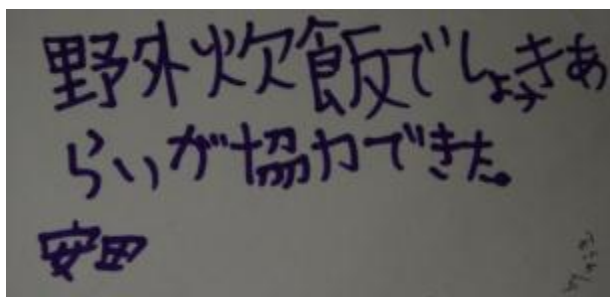
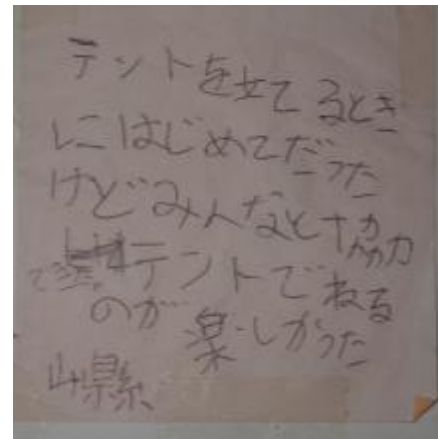
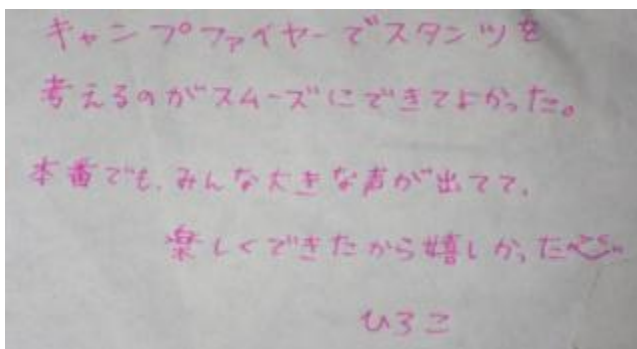
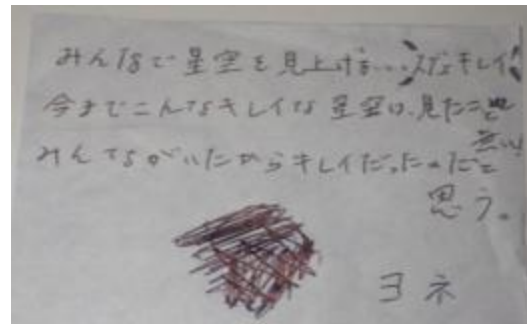
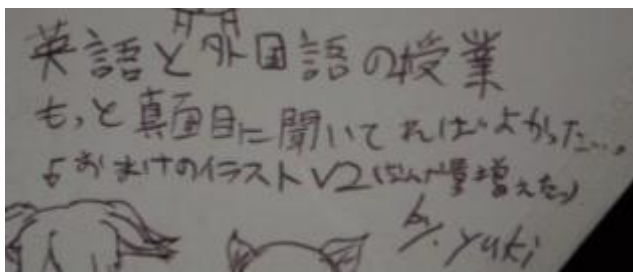
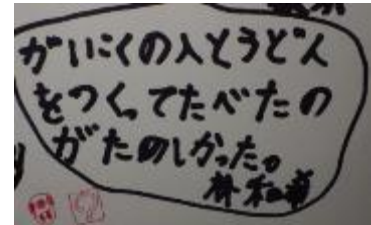
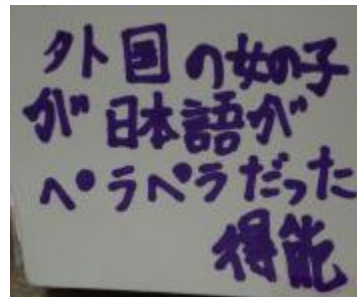
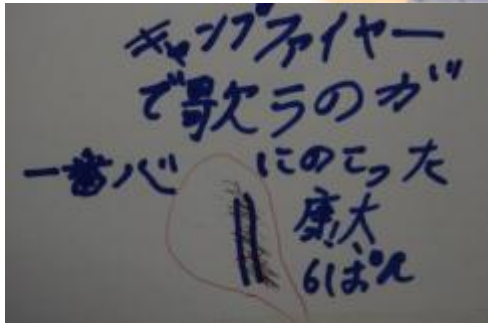
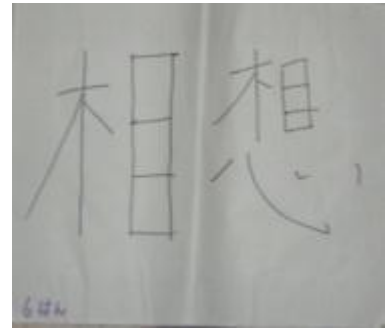


# 5班

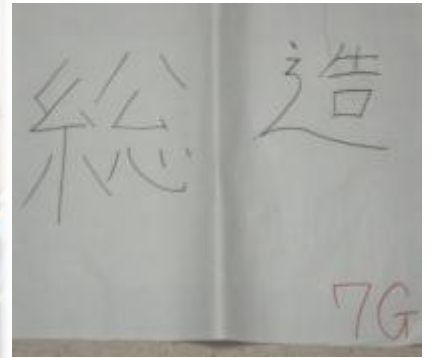




# 6班



# 7班



〇トスの中で  
 男子より新かわわ  
 せられた時進行  
 力がよくて結果的に  
 優勝したことが  
 うれしかったです

シルクソック、  
 全員の輝く  
 成果が  
 「もうすぐです」

みんな積極的に  
 取り組んで、人  
 間はみんなの  
 ために生きてい  
 かなきゃいけない  
 と思います。

いろいろな  
 ことがあって難  
 しかった。

私は、2は3日し  
 か行、てないのぞ  
 3は4日は、こい  
 になみぢかいい  
 だろうと思  
 ました。

みんなで教  
 科ができて  
 よかった。

楽ならしい、友が  
 できるといい  
 ですよ。  
 いろんなこと  
 がある  
 またはまた

バス0のときに  
 まい5かんが  
 うしろ3人  
 を注意してあ  
 けていたのありが  
 とう

かい、全せん浴  
 くて不安だ、たいて  
 友だちができて、補  
 ちふんたのよ  
 たてず、楽し  
 だ















# 12班



層増  
ともだち  
12班

おいねんま  
来たっ〜い!  
キャンプが楽しかった  
楽しかった  
えり

キャンプが楽しかった  
また行きたい

来年もまた  
来たい。

さいじより  
なかがよくなりました  
ふろきもよ  
よかったです

キャンプが楽しかった。  
たまり

キャンプ  
ハイヤーが  
たのしかった

みんなに  
楽しかった  
ありがとうございました!  
うみ

ハイヤー  
が楽しかった  
たまり

来年もまた  
キャンプに  
来たい。  
えり

# スタッフメッセージ

## プログラム進行部



沢山の方々の『そうぞう』への思いに支えられたからこそできたキャンプだったと思います。本当にありがとうございました。  
けいちゃん(明石景子)

忙しくて大変だったけど、とても充実した日々でした(\*^^\*)機会があれば参加したいです！  
ゆり子(森田友梨)

私はこのキャンプでいろんな失敗をしたけど、その分みんなにいっぱい助けてもらって、人の温かさをたくさん感じる事ができました。  
本当にありがとう。

ちえ(内本千恵)

みんなと一緒に「そうぞう」し、たくさんのことを教えてもらったこの夏のことは忘れません！  
本当にありがとうございました！

まき(重田真輝)

みんなで思いを重ねて「創造」した素敵な時間！数か月たった今でも、あの時の色々な気持ちを「想像」できます。みんなはどんなことを感じたかな？この気持ちを大切にまた来年、会おうね！

なっちゃん(吉川奈都子)

PDの役割は“想像、以上にハードな毎日”で「もっと〇〇したほうがよかった」ような反省もたくさんありましたが、それらを含めて大きな成長を感じ一回り大きくなった新しい自分を“創造、できたように思えます。みんなありがとう！また会いましょう♪

ふーちゃん(安井文隆)

誰の心にもある一本の柱。  
このキャンプはそんな「心の柱」だと思います。  
つらいとき、苦しいとき、このキャンプの思い出がきっと僕らを支えてくれます。  
仲間の笑顔を自分の力に！  
また会いましょう！

しんさん(松浦慎)





## 物品調達部



ユネスコ子どもキャンプに実行委員として関わらせていただいたことで、大変貴重な経験をする事が出来ました。この経験を活かして日々の生活を充実したものにしていきたいと思えます。ありがとうございました。

ゆっくん(西村豊)

今回のキャンプは学ぶことが多く、自分に足りない物も色々わかり、いい経験になりました。

こうき(吉本康貴)

雨とか大変だったけど、それも良い思い出になりました。もっともっとみんなと話したかったな。きっとまた会おうね！

よこたん(横田創)

まだまだ幼いですが、とても良い経験が出来ました。特に常に周りにいたMDの大人の方々のおかげで自分の何もかもが変わったように思えます^^

みなさん本当にありがとうございました。

かわむ〜(河村和紀)

大雨で疲れている子どもの姿を見たときは心配でしたが、スタッフの笑顔で子ども達もどんどん笑顔になって、ファイヤーのスタンプではどの子もキラキラ輝いていて、そんな姿を見られて本当に参加させていただいて良かったです♥

森奈津美

初めての参加でしたが、もっと早くに出会いたかったなと心から思います。本番は途中からしか参加でませんでしたが、それでもここでできた経験や出会いは私にとってすごく大切でかけがえのないものになりました！

よっちゃん(竹中美乃)

多くの人々が1つの場所で、今共に成長しているという確かな実感をいる貴重な機会でした。そして何より楽しかったです。キャンパーのみんなに拍手！

のんちゃん(櫻井希望)

カメラのファインダーを通して子ども達の生活や、スタッフの活躍を見てきました。

子ども達の打ち解けていく姿や、様々なポジションで頑張るスタッフの様子にたくましさを感じ、今年の良い夏の思い出となりました！

ぐれっち(小暮強志)

様々にハプニングはありましたが大きな事故もなく、楽しませていただきました。今回は途中参加、途中離脱せざるを得なかったもので、次はフルで参加できたらいいなと思います。キャンプに関わった皆さん、お疲れ様でした。

佐藤隆志



とても良い経験になりました。なんだか楽しかったです。また機会があれば参加したいと思います(´・ω・´)

なふこ(正木茜)

昨年の11月に突然召集され、この夏最高の思い出が出来ました。このキャンプで学んだことは、ユネスコは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization の略って事。

ざきさん(箱崎達郎)

私は初めてキャンプに参加して、貴重な経験が出来ました。ただ、反省すべき点もたくさんありました。裏方で準備など大変でしたが、周辺のスタッフの人たちに助けってもらって感謝してます！！

えびちゃん(蛭浜弓美子)

今回の岩国キャンプは自分にとって2度目、そして実行委員としての参加になりました。周囲に多々お世話になりながら、なんとか終わることができ、とてもうれしく思っています。用事が重なり、最後までやりきれなかったことが残念ですが、とてもいい経験となりました。当日スタッフの皆さん、運営委員・他の実行委員の皆さん、ありがとうございました。

りよ一ま(坂本圭)

私は途中からの参加でしたが、一つ一つの企画から子どもに楽しんでもらおうという熱意が感じられました。疲労困憊なスタッフの大人と元気で楽しげな子どもの顔がとても印象的でした。

チャーリー(山本将夢)

子どもキャンプお疲れ様でした！！途中からの参加でしたが、子ども達やスタッフの笑顔がいつも弾けてて、自分自身も精一杯楽しむことが出来ました。

こんな素敵なキャンプを何か月も前から準備してくださった実行委員の皆さん、本当にありがとうございます。

このキャンプで得た素敵な時間と縁を、自分の青年部の活動でも活かしていきたいと思えます。みんな、ありがとー！！

あっちゃん(中田敦也)

スタッフの皆さん本当にお疲れ様でした。スタッフであるにもかかわらず、所用のためあまり関わることができませんでした。大変申し訳なく思っています。またお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

ほしやん(星出晃)

今回初めて参加し、戸惑ったり思うようにできなかつたりしたが、子どもキャンプの全体像が少しつかめ、次に繋がる非常に良い経験になった。

本堂真人

心に平和の砦を築こう！  
ミスター(高橋重雄)



一人一人のそうぞうが集まった、素晴らしいキャンプだったと思います！  
忘れられない夏の思い出になりました。

かわ(河杉祐太郎)

今年もみんなの笑顔に癒されました！楽しいキャンプで最高の思い出できました。またみんなに会えるの楽しみにしています！

みんな、ありがとー！！

ひでっきー(柴田秀樹)

初めてのユネスコ子どもキャンプでしたが、楽しく参加することが出来ました。全国のユネスキャン、これからも繋がっていきましょう！

首藤杏子

## 保健衛生部

今回は初めて尽くしのキャンプだったけれど、みんなが笑顔で元気に帰ってくれてうれしかったです。みなさんありがとうございました。

ゆうちゃん(弘中優子)

初めて参加しましたが、とても楽しかったです。  
ありがとうございました。

しほこ(山中志保子)

初めてのキャンプということで、不安もありましたが、子ども達に大きな怪我もなく、無事に終わり安心しています。日々、子ども達だけでなく、スタッフも成長できたキャンプだったと思います。

ほり(堀井実里)



とても楽しいキャンプでした。保健をさせてもらっていましたが、腹痛や頭痛などで保健にくる子どもが多い日もありましたが、「頑張る！」と言って班に戻って行く子ども達の成長ぶりが見れて良かったな～と思います。おおきにありがとうございました！

めぐ(板谷めぐみ)

# スタッフ研修会

## 第1回研修会 開催要項

日時 平成23年8月24日(水)10時00分～8月25日(木)11時30分

場所 山口県ふれあいパーク

奈良キャンプの興奮の冷めぬうちにと、キャンプに関心のある高校生や大学生に声かけして、実施。奈良から松浦氏を講師に招聘する。

趣旨

ユネスコ子どもキャンプ開催に向け、キャンプ実行委員会を立ち上げるに先立ち、参加者の親睦を深めると共に、ユネスコ活動の目的等について共通理解を図る。また、キャンプ実務や心構え等を学び、キャンプスタッフとしての自覚を深める。

内容

- ① 奈良ユネスコ子どもキャンプ報告会並びに子どもキャンプの意義について
  - ② ユネスコ活動の目的と概略(初心者学習会)
  - ③ キャンプ指導(テント設営、野外炊事)
- ※テントでの宿泊、夕食及び朝食の野外炊事を実際に体験する。

## 第2回研修会 開催要項

日時 平成24年3月31日(土)～4月1日(日)

場所 山口ふれあいパーク

交流の機会を増やして、実行委員間の親睦を深めるため、春休みを利用して開催。

活動報告

・3月31日

10:00～10:10:「ふれあいパーク」本館エントランスにて入所式を行う(岡崎会長の挨拶、ふれあいパーク:倉光氏から施設利用の説明)。

10:10～11:40:天候にも恵まれ予定とおり銭壺山下山。→柳井市日積:お山の学校まで。  
お山の学校視察。子どもキャンプ当日にお世話になる地元住民団体「Seeds」西本会長と顔合わせを行う。

12:00～13:00:車にて「ふれあいパーク」に戻り本館食堂にて昼食。

13:00～17:00:「ふれあいパーク」研修室にて課題検討。詳細は下記のとおり

議長を実行委員:弘中(寛)が務め、他のメンバーがA～C班に分かれ検討・プレゼンテーションを行った。坂本が作成したテーマ原案を基に各班が指摘事項・改善点等を協議。各班が協議結果を発表するが意見はまとまらず、各班の協議結果を坂本が持ち帰り再度作成し事務局に提出することとなった。

(ア) 銭壺山下山・お山の学校での活動について(A班発表)

(イ) ペリースクールとの交流について(B班発表)

(ウ) 岩国寿司作りについて(C班発表)

18:00～19:00:本館食堂にて夕食

19:00～20:00:銭壺山山頂に天体観測。高水付属中学校生徒会キャンプと合流し岸村進先生の指導を受ける。天体望遠鏡にて月、金星、木星を観測、また、冬の大三角などの説明を受ける。

20:00～21:00:「ふれあいパーク」大部屋にて課題検討。



## 第2回スタッフ研修会タイムスケジュール

3月31日

時間	プログラム	施設	用具・持ち物	内容
9:00	岡崎・三原・宮本は車でお山の学校集合 岡崎号・三原号はそこに残り、宮本号に便乗し由宇駅へ			
9:35	由宇駅集合			※自家用車の人は直接ふれパークへ
車(宮本・箱崎・公用車)に各自配車⇒ふれあいパークへ移動				
10:00	ふれあいパーク集合	本館エントランスホール		入所式
10:10	銭壺山下山		歩きやすい服装で	※荷物をふれパークに置いて下山のルート及び課題の抽出 雨天時は、午後からの研修予定を繰り上げる。
11:00	日積到着	お山の学校		お山の学校視察、担当者顔合わせ シーズ会長西本氏と挨拶を交わす。
車(岡崎・宮本・三原・有田)に各自配車⇒ふれあいパークへ移動 (有田号は直接お山の学校へ向い、そこで待機。車で山を降りてきた三原宮本号と、皆が下山して来る前に合流)				
12:00	昼食	本館食堂レストラン		※食事・休憩後、荷物は研修室へ(13:00～) <b>会費</b> の集金
13:30	研修	研修室 (利用時間13:00～17:00)	文具	アイスブレイキング 募集要項の検討 グループでの課題や問題点の整理・プレゼン
18:00	夕食	本館食堂レストラン		※食事前に荷物は集団宿泊室へ
19:00	天体観測	銭壺山頂上 (夕食後すぐに移動)		岸村 進 先生のご指導を受ける 高水付中学生徒会キャンプと合流。 雨天時は、 <b>プロジェクター・スクリーン</b> で夜空の上映
20:00	研修	大部屋	文具	グループに分かれてのスタッフ用プログラム考案 (ベリースクール、お山の学校、 模型作りについて)
21:00	入浴	浴場(本館一階)	入浴道具(タオル等)	
22:00	就寝	集団宿泊室(本館1階)	寝巻・歯ブラシ等	

4月1日

時間	プログラム	施設	用具	内容
7:00	起床	集団宿泊室(本館1階)		
7:30	食事	食堂		※食事後、部屋の片付け
9:00	研修	研修室 (利用時間9:00～12:00)	文具	前日の発表 スタッフプログラムの作成 今後の予定
11:00	片付	施設内・周辺		ゴミ拾いなど
11:30	退所	本館エントランスホール		退所式

由宇駅発 12:05 13:00 岩国方面  
12:02 12:42 徳山方面

### 第3回研修会 技術研修

月日 平成24年4月29日(日)、30日(祝)

会場 山口県ふれあいパーク

野外活動指導者養成講習会も兼ね、山口県キャンプ協会のご協力の下、公認指導者を派遣いただき、下記要領にて実施した。

第3回スタッフ研修会（技術研修）タイムスケジュール				
（4月29日）				
時間	内容	機材・用具	備考	その他
9:30	由宇駅前に集合しふれあいパークに出発	ふれパクのマイクロバス	自家用車の方は直接ふれあいパークへ	
9:45	ふれあいパーク集合		エントランスホール	
9:50	入所式		ふれあいパーク梅森所長さん & 指導員・ユネスコ協会役員・事務局	エントランスロビー
10:00	(1)アイスプレーキングの実際		講師：田村洋幸先生	研修室
10:45	キャンプの安全 ①夏の健康・食中毒		水原久美子先生	〃
11:15	②キャンプ場における危険回避		川口博行先生	〃
12:00	昼食			レストラン
13:00	テントの設営方法		ふれあいパーク指導員	テントサイト
	テント設営と安全		川口博行先生・田村洋幸先生・宮本剛先生	〃
14:00	自然体験のアクティビティー		田村洋幸先生・三原善伸先生	グラウンド
15:00	キャンプファイヤー—実技①		川口博行先生	ファイヤーサークル場
16:00 ～ 18:30	野外炊飯実技 ① 炊事場の環境・燃料 ※安全な薪割り技術 ② 食器の選び方・衛生的な保管 ③調理の実際		川口博行先生・田村洋幸先生 三原善伸先生・宮本剛先生	野外炊飯棟
18:30	キャンプファイヤー実技② キャンプソング・ファイヤーセレモニー (薪は組みますが実際に火は燃しません・ライトで行います)	消防署の都合で	川口博行先生・三原善伸先生	グラウンド ファイヤーサークル場
20:00	仲間づくりとゲーム展開 ※熊が出た・線路は続くよ		三原善伸先生	グラウンドor室内
21:00	入浴			
22:00	就寝			
（4月30日）				
時間	内容	機材・用具	備考	その他
6:00	起床・朝食準備		野外炊事場へ	
7:00	研修 野外炊飯(朝食作り) サンドイッチ	食パン・卵・ハム・レタス・牛乳・フレッシュジュース	川口博行先生・宮本剛先生 三原善伸先生	野外炊事場
9:00	キャンプクラフト バードコール・プラバン工作	工作用具	三原善伸先生・宮本剛先生	研修室
10:00	キャンプと子どもの成長		川口博行先生	〃
11:00	まとめ		宮本剛先生	〃
11:30	退所式		ふれパク梅森所長さんor指導員の先生・講師・ユネスコ協会事務局	エントランスロビー
11:40	ふれパクを出発し由宇駅へ			
12:05	(電車上り)			



# フレキャンフ

日時 平成 24 年 6 月 9 日(土)・10 日(日)

場所 山口県ふれあいパーク

参加者 実行委員 19 名、応募スタッフ 16 名、岩国協会関係者 7 名、日ユ協連 1 名 計 43 名

プレキャンフ タイムスケジュール					
6月9日					
時間	プログラム	施設	担当	用具・持ち物	内容
12:30	由宇駅	ふれパクバス出発	だんちょう さんちゃん		昼食は各自済ませでの集合となります。 ※自家用車の人は直接ふれパクへ
13:00	集合 受付	ふれパク交流棟 イベントホール	えびちゃん・し ほこ・みさと、 ゆうちゃん	マジック、名札、 領収書	名札の準備
13:30	入所式	イベントホール	ふれパク職員	しおり	
13:40	アイスブレーキング テーマの説明	イベントホール	ロッキー	しおり ギター	アイスブレーキング: ゆり子、あかね テーマ: ロッキー 歌: ケイ、かわ
14:30	テント設営講習	キャンプサイト(E・F)	ふれパク職員	テント・寝袋	講習を受けた後、各自のテントを設営 * 後片付け(テント風通し・寝袋日干し)の 方法の講習もお願いする。
15:40	キャンプ場巡り	キャンプサイト・炊事場	マキ、ちえ	しおり キャンプ場地図	担当者は早目に来て下見が必要
16:10	野外炊事 夕食作り	炊事場	オーム、ケイ	食材・食器・調 理道具他	ハヤシライスとサラダを作ってくださいま す。火起こし・火の始末: オーム、ケイ メニュー: ゆり子、あかね 後始末: とこうき
18:00	キャンプファイヤー 模擬	多目的グラウンド	ロッキー、ふー ちゃん	ランタン	※火はつけない 本番は、ファイヤー終了後、グラウンド内のあ ちこちに班で分かれて反省会
19:30	入浴	浴場(本館一階)		入浴道具 (タオル等)	
21:00	研修・交流会	交歓室	ロッキー	しおり ギター	テーマソングの練習: ケイ、かわ
22:00	就寝	キャンプサイト (テント泊)			
6月10日					
時間	プログラム	施設	担当	用具	内容
6:00	起床	テントサイト		洗面道具	
6:15	朝の集い	キャンプサイト	よっちゃん けいちゃん	CDデッキ	目覚めの体操をみんなで行う
6:30	野外炊事 朝食作り	炊事場	えびちゃん・ ゆうちゃん	食材・食器・調 理道具他	カートンドックとスティックサラダ、ゆで卵を 作っていただきます。 火起こし・火の始末: オーム、ケイ メニュー: えびちゃん、ゆうちゃん 後始末: とこうき
8:00	テント風通し・寝袋 日干し	テントサイト	さんちゃん		
8:30	錦帯橋模型作り	イベントホール	ロッキー 観光振興課		1/5錦帯橋模型作り
10:45	テント・寝袋撤収	テント撤収			
11:15	退所式	イベントホール			※11:30 ふれパクバス出発
		由宇駅発 12:05 13:00 岩国方面 12:02 12:42 徳山方面			

# フレキャンプ反省会の記録

## 〈 よりよいキャンプにするために 〉

### 1. 受付

- ・電車の時間に合わせた集合時間にしてみては
- ・時間の見通しを持たせる
- ・子どもに積極的に声掛けをする

### 2. 入所式・アイスブレイキング・テーマの説明

- ・ゲームの内容を考える
- ・子どもを注意する方法
- ・逆光に気を付ける
- ・旗の設置方法

### 3. テント設営

- ・テント間の間隔
- ・テント張りの方法の統一
- ・テント設営の補足
- ・テント設営説明時、日陰で説明

### 4. キャンプ場めぐり

- ・子ども歩行スピードの違い
- ・班行動時、バディなど決めておく
- ・キャンプ場めぐりのコース

### 5. 野外炊事

- ・テーブルが狭いので食べにくい
- ・片付けの説明が少ない
- ・片付けの際スポンジが少ない
- ・時間の目安をあらかじめ周知
- ・食料の量（多かった）
- ・食器置き場所。字面においていた
- ・雨の日対策
- ・ゴミの分別
- ・排水溝の扱い
- ・食器の数
- ・時間が足りない
- ・ナタの数が少ない。（要確認）
- ・班ごとに蛇口を決めてみては。
- ・食材の配り方。
- ・いただきますを楽しむ、方法
- ・レシピの説明方法。子供向けに！
- ・料理の完成→時間に差が出る。差の対策。
- ・見通しを持たせる工夫。
- ・トンゴ、ひばさみ等を各班に一つ配置する。
- ・班行動の中でなにもしない子どもが出ないように！
- ・火の説明。子ども用にプリントを用意する。割り箸の数。火の後片付け。



## 6. キャンプファイヤー（模擬）

- ・歌の練習。
- ・「燃えろよ燃えろ」の音階が地域で違う。統一したい。
- ・会場への道が暗いので、配慮。
- ・本番で子どもを静かにさせる方法。

## 7. 入浴

- ・班ごとに時間をずらす。
- ・入浴後の指示（次のプログラムを見通した指示）の徹底。
- ・入浴のマナー確認（片付け、体を洗ってから浴槽に入るなど）スタッフの配置。
- ・ドライヤーの数が少ない

## 8. その他全体に関して

- ・スタッフ全員がきちんと時間を把握しておく。
- ・考えて動く。
- ・全体的に時間に余裕をもたせる。
- ・就寝時、テントの中の対策
- ・子どもの健康管理をしっかり！
- ・キャンプスタッフとしての心構え！
- ・実行委員長への負担の軽減
- ・みんなで創っているという自覚を！
- ・スタッフの役割と目印



## プレキャンプ実行委員反省会

（6月10日解散後に実施）

### 1. 各プログラム反省点について

6月9日（開会式、アイスブレーキング、テント設営、野外炊事、キャンプファイヤー、入浴）の反省点については奈良ユネスコ：松浦氏作成の〈よりよいキャンプにするために〉参照。

6月10日

#### ○ 朝の集いについて

- ・朝の集いについての要否。奈良キャンプ時は毎朝行っていたが、過去のキャンプで必ず行っていたわけではなく朝食作りから始まるキャンプもあった。（奈良ユネスコ談）
- ・体操の要否。プレキャンプ朝の集いの際、実行委員体操担当指導の下、体操を実演したがテンポが早く子どもに教えるのが難しいのではとの意見があった。もっとスローテンポの曲にすれば子どもにも定着するのではとの意見もあった。また、奈良キャンプの際は3番まで体操を用意しており初日は1番だけ、二日目は1番～2番までと毎日少しずつ体操を教え最終日の朝に完成させる等工夫していたようである。

#### ○ 朝食作りについて（カートンドック、野菜スティック、ゆで卵）

- ・全員分の食材が置かれたテーブルから各班の分量の食材を分けるところから朝食作りが始まっているので予想以上に時間がかかっている。本番では食材はあらかじめ班ごとに分け、各班のテーブルに事前に備えておく等工夫が必要である。
- ・朝食作りのために炊事場に集合してもなかなか説明が始まらない。集まり次第すぐ説明に



入れるよう工夫が必要である。

- ・ レシピがしおりの中にあり活用されていない。濡れても大丈夫なようラミネート加工を施し事前に配布する等工夫が必要である。
  - ・ 焦げ対策。カートンドックが焦げて黒く失敗した際はどのようにするのか考える必要がある。子どもは焦げを嫌う傾向がある。
- 錦帯橋模型作りについて
- ・ 模型作りは順を追って組み立てていくため人数がいればすぐに終わるというものではない。100人規模のキャンプでは何も出来ない子どもが出てくる可能性がある。持ってくるパーツを班ごとに指定し全員参加させる等の工夫が必要である。また、前半に作業する班、後半に作業する班に分け作業していない班には錦帯橋についての説明をするかスタンプの準備に当ててみてはどうか等の意見が出た。
  - ・ 錦帯橋模型完成後の橋上記念撮影にて子どもが殺到した際の対策。
- テント片付けについて
- ・ 撤収時間が30分に設定されているが、30分で片付けるのは難しいためプログラムに余裕を持たせて欲しい。
  - ・ 女性では骨組みを崩すのが難しいため手空きの男性スタッフが力仕事を手伝い円滑に片づけを完了したい。
  - ・ ペグ等紛失した際の対策。
  - ・ ムカデなどの昆虫対策。事前に事態を想定するよう周知が必要。
- 退所式について
- ・ 本番の来賓挨拶について→事務局が調整
  - ・ テーマについての振り返りがなかった。なぜか？
- 全体を通して。その他
- ・ 全プログラムを通して「そうぞう」というテーマを感じない。関連性が分からない。今のままでは心に残らない。
  - ・ プログラムの時間配分に難がある。
  - ・ 夜のトイレに虫が群がっている。対策して欲しい。各テントには蚊取り線香が欲しい。
  - ・ 各スタッフが各担当の仕事を把握する。
  - ・ 炊事場及び食事するところが狭い。今回女子がテントを張ったところを食事場にするなど対応が必要。
  - ・ 台拭きが少ない。また、干す所も無い。衛生面で良くない。
  - ・ 実行委員がテーマを自覚していない。なぜ、ユネスコの子どもキャンプなのか！
  - ・ プログラムについて想像が足りていない。全体的に行き当たりばったり！
  - ・ 実行委員長への負担が大きい。細かい作業はさせない。
  - ・ 運営委員会はいざというときに助けてもらう。配膳等当たり前のように手伝わせない。
  - ・ しおりの活用。今回のプレキャンプにおいてほとんど使用していない。しおり作成時に内容を精査する必要がある。
  - ・ タイムキーパーによるプログラムの進行。プログラムの進行に遅れが出ていても誰もあせらない。各人が危機感を持つ必要がある。
  - ・ 本キャンプのメインプログラム「キャンプファイヤー」の時間設定を要精査。

## 2. 実行委員会組織編制の変更について

実行委員長

ロッキー

総務班

廃止。旧総務班員は物資調達班へ

プログラム班

班長：けいちゃん

物資調達班

食材担当班長：リョーマ/

ゆっくん、あかね、えびちゃん、有田さん

物品班長：こうき/

かわ、星出さん、ざきさん、よっちゃん、大村さん

保健班

班長：ゆうちゃん/ しほこ、みさと ※組織編制は今後も変化していく可能性あり。



## 3. その他

- ・ ペリースクールとの交渉。小学生 20 人、中学生 4 人参加予定。移動は市のバスを予定。
- ・ 次回実行委員会、6 月 24 日を予定。



# キャンプの反省

8月12日、キャンプ終了後ふれパクの研修室にスタッフが集まり、反省会を開いた。そこで出た意見は、その場でホワイトボードに記録された。以下は、その記録の写しである。

## カウンセラー

- ・お手本（片付け、服装、自己判断）
- ・リーダーとしての意識づけ
- ・感謝の気持ちを伝える
- ・子どもの受け入れの時、カウンセラーの人数が少ない
- ・休憩時間
- ・炊事場のスペース、レシピは良かった
- ・振り返り、班タイムについての進め方の説明
- ・小さい紙に書いてから
- ・ペリースクール生とのお別れ
- ・あとどれくらいの時間という呼びかけ
- ・カウンセラーの情報交換の取り方
- ・持ち物についてもっと詳しく（水筒、雨具）
- ・プログラムの就寝時間
- ・移動の仕方
- ・スタンプの準備時間
- ・最後の寄せ書きの時間
- ・地域性が出て良かった



## プログラム

- ・アイスブレイキングはテーマに添えていた
- ・救護（事前研修のときに詳しく伝える）
- ・カウンセラーにばんそうこうなどを持たせる
- ・テーマを初日にきちんと伝えられなかった
- ・持ち物（水筒、雨具、軍手）
- ・お昼に班の時間がうまく入って入なかった
- ・プログラム班、運営、事務局の連携がうまく取れていなかった
- ・誰に交渉すればよいのか→責任者を決めておく
- ・全体的に余裕が持てなかった
- ・ペリースクール生、相手方との注意点をまとめておく



## 物品・食材

- ・食事を子どもに作らせるプログラムを入れる
- ・子どもともっと触れ合うべき
- ・物品の数の確認をしっかりとする
- ・一人の人に頼りすぎ
- ・臨機応変な対応ができた（しっかりと準備して予定通り進めることも必要）
- ・プログラム進行との連携を強化すべき
- ・シュミレーションが足りなかった
- ・クリームシチューの出来が良かった  
→メニューをもっと工夫したらキャンプ自体が楽しくなる
- ・運営委員との連携を強める
- ・各自の役割をしっかりと決めておく
- ・移動手段をはっきりさせる
- ・余裕のある人にもっと指示をあたえるべき



## 保健

- ・初日に薬の確認不足（できれば本人とも）
- ・物品調達とうまく連携が取れていない
- ・バンダナが使いづらい
- ・キャンプ前日に顔合わせができていた
- ・看護師の方が長時間いてくれて引き継ぎがうまくできた
- ・虫よけ対策の強化（スプレー）
- ・トイレの虫よけがうまくできた
- ・薬の飲み忘れが最終的に少なかった
- ・記録の重複
- ・救護室、物品の整理
- ・顔が分かるように写真

# 実行委員会の記録

平成 23 年 9 月 20 日付で、各マスコミと岩国市の市報、山口県内のユ協と大学・短大・専門学校、そして広島県西部地区の大学・短大・専門学校へ実行委員を公募する旨の文書を一齐配付した。公募の結果、大学 1 年生から 20 代後半の社会人まで主に岩国市内を中心に県内外から 10 数名の応募があり、11 月 19 日に第 1 回実行委員会が開催された。

この後、キャンプ本番直前の 8 月 5 日まで合計 12 回の委員会が開催されたが、委員の所在地が広範囲にわたっていたこともあり、日程調整を行ったにもかかわらず、全員の出席が叶わないことが多かった。委員間の連絡手段として、始めはメールリストを、3 月頃から facebook を情報共有手段として採用したが、なかなか成果が上がらなかった。

委員としての一体感と議論のしやすい環境作りをと、泊りがけのスタッフ研修会を 3 回実施した。しかし、この研修会にも全員参加が得られなかった。4 月当初にはついに実行委員長の辞退劇が起こり、委員の結束力が低下、委員会の開催そのものが危ぶまれる事態となった。この事態に鑑み、運営委員会は新しい実行委員長を選任すると共に、年少であるがキャンプ経験のある高校生 4 名を新たに実行委員として加入させることを決断した。5 月中には本番を想定した当日の役割分担を決め、プレキャンプに備えた。

その後、6 月のプレキャンプを迎えたが、初めて参加したスタッフから厳しい意見や提案をいただくこととなった。しかし、これこそ委員会の雰囲気を変えてゆくターニングポイントであった。キャンプ実施に対する危機感という形ではあったが、ようやく委員全員が共通の意識でまとまれたと言ってよいだろう。これ以後、実行委員会の雰囲気は確実に変化した。

そういう雰囲気の中、7 月に入ったが第 10 回委員会 (7/8) 後は、大学・短大生は前期試験を迎え、委員会は社会人と高校生中心の開催となった。第 11 回の 7 月 22 日以降は、当日プログラム作成について詳細を詰める会議を一週間連続して開催した。そして迎えた最後の委員会 (8/5) は、完成した詳細プログラムを役割別に確認していく、ほぼ全員参加の会議となった。

以下、10 か月にわたり 12 回に及んだ実行委員会の実施記録(議事録抄)である。



## 第 1 回実行委員会

日時：平成 23 年 11 月 19 日(土) 15:00～ 場所：市役所会議室

会長挨拶、自己紹介後、以下の説明。

1. ユネスコ子どもキャンプとは【三原】
2. 役割分担(責任者)【宮本】

実行委員長：全体の取締役(=キャンプ長)

進行担当：時間&プログラムの管理人

班活動担当：

物品調達担当（食糧・器具） ⇒第2回実行委員会で決定

食糧班：食材準備、食事準備係り

器具班：プログラムに必要な器具の準備&撤収係り

保健・救護担当：全員の健康管理人

総務・記録担当：受付・参加者管、記録、会計など

実行委員=キャンプの柱を作る人

カウンセラー=キャンパーの世話をする人

※ カウンセラー、キャンパーは全国から募集

} スタッフ（50～70人ほしい）

### 3. メーリングリスト（ML）作成のお願い

沖野伸一郎くん作成

⇒メーリングリストを用いてテーマについて事前協議を行う。

## 第2回実行委員会

日時：平成24年1月15日(日) 13:00～16:30 場所：岩国市民会館

本日の議題

#### (1) 実行委員長選出について

沖野君（しんちゃん）が立候補→決定

#### (2) 協議事項について

①大会テーマを考える（提案された案を踏まえながら。別添参照）

②プログラムを考える（キャンプでどんな事がやってみたいか。別添参照）

※グループに分かれて討議し、その後に全体協議しては

→3グループ（1, 2, 3班）に別れて議論→発表（模造紙を使って）

「わかりやすさ」「地域性」「ユネスコ」にポイントを置いて考えるように宮本先生より指示。

<発表内容>

- ・1班：森田、弘中(優)、沖野、明石、山本

テーマ：『絆、笑顔、自分らしさ、自然、発見～5つのアーチをつなげよう～』

アーチ=錦帯橋（地域性）

プログラム：①キャンプファイヤー

②ウォークラリー

③岩国史跡めぐり

④感謝の木（1日のふりかえり、感じたことをメモし、そのメモをツリー状に貼っていく）

- ・2班：有田、大前、蛭浜、安井

テーマ：『ぼくときみで、こうかん』

こうかん=①交換→ことばのキャッチボール

②幸福感→幸せを感じる

③交感→人と交じって、関係を持って、いろいろ感じる

プログラム：具体的案は特になし。キーワードは下記の2つ。

「自然」・・・自然のもの（木の枝や葉など）をつかって記念品を作る



「たすけあい」・・・自然は不自由。不自由の中に自分の役割を見つける。一人  
じゃないことを再認識

- ・ 3班：竹中、坂本、正木、箱崎、弘中（寛）

テーマ：

『みんなほんもの～自分をして、みんなを知ろう～』 みんなのいいところを知る。

『sozo～感じる力・生み出す力～』

Sozo=①creative(創造) 先のことを考える、新しいものを考える。

②imagination(想像) 相手の気持ちに気づく、相手の立場になって考える。

プログラム：・ウォークラリー

- ・ キャンプファイヤー
- ・ 岩国寿司作り
- ・ ペリースクールとの交流

⇒テーマについては、次回も引き続き協議

## 5. その他

- ・ メーリングリストではなく、連絡網制にする。

## 第3回実行委員会

日時：平成24年2月26日（日）13:00～17:00 場所：岩国市民会館

1. 運営委員挨拶 岡崎会長
2. 自己紹介 実行委員会初参加の西村氏、星出氏から自己紹介有り
3. 本日の議長・書記選出  
議長：沖野実行委員長  
書記：箱崎

## 4. 本日の議題

### (1) 協議事項について

#### ① 大会テーマを考える

第二回会議の案を基に沖野実行委員長が考えたテーマ「SOZO～心の橋を作ろう～」について参加者全員で協議した。

- ・ メインテーマ：「SOZO」について

SOZO（創造・想像）というメインテーマについて異議は無かったものの表記の仕方について「SOZO」「SOUZOU」「そうぞう」の三つの提案があり全員で協議することになる。結果、キャンパーが小学生であることから読みやすさを優先しひらがな表記の「そうぞう」が採用となる。

- ・ サブタイトル：「心の橋を作ろう」について

「作ろう」の部分について「つなげよう」「かけよう」「わたそう」「きずこう（気付こう、築こう）」に変えてみてはどの案や、倒置法を用い「作ろう心の橋を！」等複数提案あったが協議の結果「心に橋をかけよう」が採用となった。

※ 他にも「みんなの心にかける橋」「心に橋を」などの案もあった。

上記のとおり、大会テーマについて「そうぞう～心に橋をかけよう～」に決定した。

#### ② プログラムを考える

プログラム・役割分担への疑問をグループ（1～3班）に分かれ話し合い発表。発表さ

れた疑問について運営委員もしくは事務局が回答した。

## (2) 役割分担について

第三回実行委員会参加者に役割分担の希望をとったところ以下のとおりになった。

- ・総務班（竹中、大村、箱崎）
- ・プログラム班（安井、弘中（寛））
- ・物品調達班（明石、長谷部、坂本、西村、星出）
- ・健康・安全班（今回は希望者なし）

※欠席者については次回実行委員会の際希望をとる。また、今回とった希望も決定ではなく状況に応じて変更の可能性あり。

## 第4回実行委員会

日時：平成24年3月8日（木）14:30～18:00 場所：岩国市役所

本日の議題

### (1) 役割分担について

総務班 ……箱崎（班長）、竹中、大村、蛭浜  
プログラム班 ……弘中（寛、班長）、安井、正木、森田  
物資調達班 ……西村（班長）、星出、長谷部、明石、坂本  
健康・安全班 ……弘中（優）、田中

### (2) プログラムについて

ペリースクールの生徒参加による国際交流を行うかが焦点となった。事務局によれば、ペリースクール教員との話し合いの結果、4月上旬までに人数等具体的な話をしてくれれば1日であれば生徒の参加は可能との事である。

このことを踏まえ国際交流の実施について協議した結果、言葉の壁、ペリースクールの子どもだけで固まっても意味が無いし班をバラバラに配置したら、管理が大変になるし、また一からのアイスブレイキングが必要になるなど、スタッフの負担が大きくなるなどの反対意見も出たが、米軍基地のある岩国らしさを出せることや異文化交流が出来ること、事務局からの小学生であれば言葉が通じなくても問題無いとの後押しもありペリースクール生との国際交流は行うことになる。

今後ペリースクールとの交渉は事務局が行う。

キャンパー、スタッフの体力・健康管理を考慮し山ハイクをどのように行うかが話し合いの焦点となった。晩に行われるスタンプの準備の時間を稼ぐ意味もこめ、山ハイクは行わず移動は全てバスでとの案も出たが協議の結果、

ふれあいパーク→（徒歩下山）→柳井市日積お山の学校→（バス）→錦帯橋→  
（バス）→ふれあいパークの予定でプログラムを行うことになる。

※日積の方の厚意により昼食は「そうめん流し」を予定している。

### 8月12日8:00～11:00の活動について

団体ゲーム、マイ箸・ネームプレート作製、キャンパーが小さい紙にメッセージを書き大きい紙にみんなの紙を貼り付ける、などの意見が出た。

最後のプログラムであるためテーマを完結するもの、橋をモチーフにした何かを今後検討していくことになる。

## 第5回実行委員会

日時：平成24年4月2日（月）17時30分～ 場所：岩国市役所

1. 募集の表紙について
2. 第3回スタッフ研修会（4/29～30）について（三原さんから）
3. キャンプ本番の予定について

## 第6回実行委員会

日時：平成24年4月15日（日）10:00～17:00 場所：岩国市役所

岡崎会長から

- ・ 実行委員長について、現実行委員長：沖野から自身の学業等の都合により今後実行委員会への参加やキャンプ本番について全日参加が難しいため実行委員長を辞したいとの申し出があり受諾。新実行委員長については弘中（寛）が運営委員から推薦され、他の立候補者や反対意見も無かったため推薦どおり弘中（寛）が新実行委員長に就任した。※弘中（寛）について、プログラム班長、実行委員長兼務となる。
- ・ ペリースクールとの交渉について、小学生数名がキャンプに参加する方向で調整中。

宮本副会長から

- ・ 今後の実行委員会や研修会の出欠の確認について、Facebook はうまく機能しておらず連絡網も手間がかかるため、今後は弘中実行委員長が全実行委員にメールを一斉送信し確認することになる。

本日の議題

### （1）プログラムについて

#### ① ペリースクールとの交流の是非について

3/31～4/1 スタッフ研修会の報告書中のペリースクールとの交流に係る問題点について解決されること無く多数決にて実行を決定していることについて異論が多数であったためこのことについて再び協議することになった。約1時間半に及ぶ協議の結果、すでにペリースクールとの交渉は進んでいることや参加者が国際交流に興味をもつきっかけになるのであれば実施する価値はあるだろうとのことで折り合いがついた。

#### ② 8月11日以降のプログラムについて

4/2に行われた第5回実行委員会にて8月10日までのプログラムについて協議が済み、以降のプログラムについて2班に分かれ協議を行い、発表を行った。

11日以降のプログラムについて上記2案が提示されたが、1班案については第5回実行委員会にて決定している10日のプログラムまでふれていること、今回実行委員会に21人中9人の実行委員しか参加しておらず今回決定したことが次回また覆る可能性を考慮し、本日のプログラムの決定は見送ることとなった。

今後のプログラム作成につ





いては実行委員会で行うのではなくプログラム班が班内で話し合い結果を報告し決定していくことになった。その際運営委員からすでに外部との交渉中であるペリースクールとの交流、お山の学校、錦帯橋模型作りは取り入れるよう依頼があった。

### ③ 募集要項テーマについて

3/31のスタッフ研修会で話し合いのあった募集要項テーマについて実行委員：坂本が手直しされたものが宮本副会長のもとに届いていたため協議を行った。内容は特に問題は無いが語尾・ですます調などに気付きがあったため、作者が意図を確認し最終決定とすることになった。本人への確認は実行委員：安井が行い総務班に報告、その後総務班から事務局に連絡することとなった。

## 第7回実行委員会

日時：平成24年5月3日（日）13:00～17:00 場所：岩国市民会館

事務局連絡事項

会報「岩国ユネスコ」にてユネスコ子どもキャンプ in 岩国について掲載している。

5月1日からキャンパーを募集しており現在4人の参加申し込みがある。

本日の議題

8月10日～12日までのプログラムについてプログラム班が協議発表を行い、他の班が6月末に行われるプレキャンプのプログラムについて協議を行った。

これまでの実行委員会内で話し合われていたプログラムとの大きな変更点は銭壺山下山及びお山の学校での交流が含まれていないことである。

## 第8回実行委員会

日時：平成24年5月27日（日）13:00～17:00 場所：岩国市民会館

本日の議題

(1) ユネスコ子どもキャンプ in 岩国Tシャツについて

(2) 班ごとの色分けについて

100人規模のキャンプを想定しているため班ごとに色分けすることを検討している。

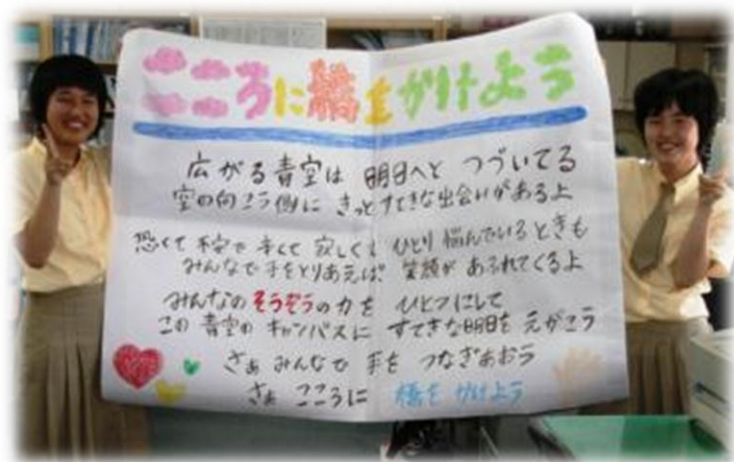
(3) テーマソングについて

別添のとおりテーマソング歌詞、メロディが提示された（作曲、作詞：実行委員河杉）。

(4) プレキャンプの日程、役割分担について

(5) 本番プログラム中ペリースクール生との交流について

8月10日にペリースクール生との交流が予定されており具体的に何をしていくのか、重田、内本がプレゼンテーションを行った。



### 第9回実行委員会

日時：平成24年6月24日（日）10:00～17:00 場所：岩国市民会館

本日の議題

テーマソングについて（ちえ、まき主導）

アイスブレイキングについて（ちえ、まき主導）

班ごとの報告事項

○保健班

・「保健予防ハンドブック」を作成。意見があれば随時連絡して欲しい。

○プログラム班

・本キャンププログラムについて。

○物資調達班（食料班）・8/8～8/12の献立・食材について。

### 第10回実行委員会

日時：平成24年7月8日（日）10:00～17:00 場所：岩国市民会館

本日の議題

プログラムの流れを出席者で確認しながら、問題点と課題を抽出。

この日以降、プログラム進行班は別個に特訓を開始する。

7月14日（土）・15日（日）には奈良から松浦氏一行の応援を依頼、1泊2日の合宿を組む。

### 第11回実行委員会

日時：平成24年7月22日（日）10:00～17:00 場所：岩国市民会館

本日の議題

大学生等前期試験に突入し、実行委員長以下少人数の会合となる。

出席者で前回に引き継ぎ、プログラムの流れを確認しながら、問題点と課題を抽出。

この日以降、一週間毎夜集合して、プログラムの詳細を検討、スタッフ運営マニュアルの作成にかかる。

### 第12回実行委員会

日時：平成24年8月5日（日）10:00～17:00

場所：岩国市役所会議室

本日の議題

実行委員全員で、完成したばかりのスタッフ運営マニュアルを見ながら、各自の役割と動きを細かく確認して行く。



# バックアップ隊紹介

## 1. 食事支援

キャンプ中の食事をすべて子どもたちの手で作るキャンプも多くみかける。しかし、一日3回の食事を全部作るとなると、調理や後片付けに一日の活動の中のかなりの時間を割いてあてなければならなくなる。確かに、野外炊飯で自らの手で調理することは貴重な体験であり、調理や食事の中から学ぶことは多い。従って、これらを全て否定するものではないが、キャンプ料理は子どもたちと作るため、短時間ででき、特殊な調理器具も必要としないメニューとすべきである。そうすると、カレーなどの煮込み料理やサラダなどが定番となり、揚げ物などのメニューは難しいのが現状である。今回のキャンプではこれらの時間とプログラム進行、食事のメニューなどを考え、一部は子どもたち自身の手で調理し、一部はバックアップ隊のみなさんのご協力を得て作った食事を提供する方式をとった。

お陰で、子どもたちは野外炊飯を友達と協力しながら作る楽しさを体験するとともに、時間をたっぷり必要とするプログラムの時は、ユネスコ協会成人部や岩国市由宇町婦人会の皆さんが調理された心こもった手料理を食べることができた。また、子どもたちと行動を共にするカウンセラーの皆さんは、子どもたちと一緒に食事を作るため食事の心配は無いが、プログラムや物品、警備、保健・看護などを担当したスタッフは食事を作る時間も無いため、これらスタッフの食事もバックアップ隊で作っていただいた。

参加者の健康やまた少しでも温かく美味しいものをと真心こめて食事を作っていたいただいた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



### (由宇町婦人会)

キャンプ場のある銭壺山の東側のふもとに位置する岩国市由宇町地区で活躍しておられる由宇町婦人会（岩国市連合婦人会由宇支部）の皆さんに、調理のご協力をお願いしたところ、こころよく引き受けていただき、地域施設の調理場において、夏場で暑い中、鶏肉のから揚げなど一生懸命作っていただき、子ども達も大喜びであった。今回は、スタッフの食事も含めて200人分の食材の調理を行っていただいたのであるが、婦人会の皆様のご支援が今回のキャンプ成功の大きなカギの一つであったことは間違いない。



### (岩国協会の婦人のみなさん)

調理のうち、スタッフの食事など、一部は現地調理を行ったが、ここでは岩国ユネスコ協会成人部の女性スタッフの皆さんが力を発揮してくださった。

「こんな山の上とは思わず運転が怖かった」と話されながらも笑顔いっぱい美味しく調理をし、「食事が元気の源よ、お代わりはいかが」とスタッフの健康も考えて頑張ってくださった。



## (遊巢の会)

実行委員会の協議において、簡単に決まるかと思われたキャンプ中の食事メニューに、意外なほど手間取った。それは食材の手配や保管、調理のしやすさ、カロリーや栄養のバランス、また子どもたちが喜ぶかなどを考えたためであった。そんな中、メンバーから「せっかく岩国で開催するからには、岩国らしい郷土料理が提供したい」との意見が出された。そこで、全国郷土料理百選にも選ばれた「岩国寿司」を食べさせようとなった。

しかし、この寿司は、特別な木枠や芭蕉の葉やハスの葉などの材料とともに、作り方にも熟練の技が必要なため、郷土の料理や歴史研究、地域交流で活躍しておられる遊巢の会（ゆうすのかい）にお願いした。お陰で、岩国自慢の「岩国寿司」を作る体験もさせていただき、錦帯橋見学とともに、岩国の味までも思い出として心に刻むことができた。



## シーズ 2. 資材提供 (Seeds)

今回のキャンプは、銭壺山山頂で開催されたが、山の西側のふもとは柳井市日積地区が広がっている。当地域にはSeeds（シーズ）という地域興しグループがあり、ユネスコ子どもキャンプについて、よくご理解をいただき、グループを挙げて協力してくださった。

当初の計画ではキャンプ場を歩いて下山し、グループの拠点「お山の学校」まで行き、地域の皆さんと体験交流するという案を練っていた。しかし実行委員で実際に踏査してみると、素晴らしいチャレンジコースには違いなかったが、子ども達には少し急勾配で難しいとの結論に達し、残念ながら交流会は実現できなかった。

しかしシーズの皆さんからは準備段階から多くのご支援をいただくことになった。その一部を紹介すれば、キャンプで使用する燃料の薪に始まり、水鉄砲工作やロウソク立てに使う竹の準備、その他イベント用大型テントや種々の機材の貸し出しと運搬など、数え挙げれば切りがないほどだ。特に感謝は、キャンプファイヤー用の薪を、シーズが管理されている山から切り出し提供いただいたことだ。ファイヤー当日、薪は広葉樹独特の白い炎を上げながら美しく燃え上がり、その瞬間、子ども達の口からは「おー」という感動の声が上がった。



シーズの皆さんは、今回のキャンプを成功に導いた、正に、縁の下の力持ち的存在であったと、そのボランティア精神には敬意を表すばかりだ。

### 3. 保健・衛生（協会成人部・一般ボランティア）

大学生と高校生を中心に組織した実行委員会には保健担当班が設けられた。これはキャンプ中における衛生管理と、参加した子どもたちやスタッフの不意の怪我や病気予防などの健康管理のためであった。そこで保健衛生部は、大学で医療や健康関係を学び、ある程度の基礎知識を有する者で組織されることになった。

しかし、如何せんまだ学生であり、学びの途中ということで、健康管理や医療知識の深い看護師や養護教諭の方がたにバックアップをお願いした。

実行委員の保健班メンバーは、参加した子どもたちと年齢的に近く親しみやすいということで、子どもたちは気楽に体調や精神的な相談をしていたが、これはどう対処してよいか判断が難しいという場面では、バックアップ隊の方々からの確なアドバイスをいただき、大きな事故や病気の発生も無く、無事に4日間を終えることができた。これはまさに、実行委員会保健担当班とバックアップ隊の二人三脚で力を合わせた成果と言っても過言では無い。

### 4. 子どもの移動（岩国南幼稚園）

キャンプでは、企画当初からバスでの移動が大きな課題となっていた。

キャンプは公共交通機関の無い、銭壺山の山頂近くの「山口県由宇少年自然の家」（通称「ふれあいパーク」）キャンプ場であった。そのため、各地から集まる子どもたちをJRの最寄の駅から送迎しなければならなかった。また、せっかく岩国まで来て、文化的な地域歴史遺産である「錦帯橋」を見せずに帰すのはあまりにも残念だった。

そこで是非とも、錦帯橋巡りをプログラムに入れたかった。しかし、100名以上の子どもたちと青年スタッフ約50名を同時に移動させるには、バスが2台から3台は必要であった。また、民間バス会社のバスでは費用が高くなり、予算を圧迫することも分かった。

そんな問題で困っていた時、「ユネスコ活動として子どもたちの移動に協力しましょう」と申し出ていただいたのが岩国南幼稚園様だった。バスでの移動をボランティアで引き受けてくださり、お陰で経費の節減とスムーズな大会運営を行うことができた。

### 5. 錦帯橋の5分の1模型組立（錦帯橋世界遺産推進室）

ユネスコは、人類の遺産となるような文化的価値や歴史的価値、自然的価値の高いものを「ユネスコ世界遺産」に登録し、その価値を守り、広く人々に伝え、未来に受け継いでいく仕事を行っている。幸い岩国には、未だ世界遺産にこそ登録されていないが、三百数十年の歴史を誇り、世界にただ一つしかない木造五連の美しいアーチ橋「錦帯橋」がある。

せっかくこの地に集うのだから「錦帯橋」を学び、三百数十年前の人々の英知に触れることは非常に意義がある。そこで、今回のキャンプでは岩国市の錦帯橋世界遺産推進室のご協力の下、錦帯橋の5分の1の模型組立に挑戦し、コンピュータも無かった時代の人々の、技術の高さに感動を覚えることができた。





## 6. 各種機材・設備の提供（ユネスコ協会成人部）

ふれあいパークのキャンプ場は、機材も設備も色々整っており大変素晴らしいキャンプ場である。しかし、今回のように100名を超える子どもたちと、さらにゲストとして米軍基地内のペリースクール関係者約50名、さら



には青年スタッフ70名にユネスコ協会や行政等関係者30名が行動を共にするには各種機材や資材が必要となり、臨時の調理流し台の設置やキャンプファイヤー場の臨時照明設置なども必要であった。

これらの機材資材の提供と設置についても協会関係者のご尽力により、多くの問題を解決することができた。

## 7. 記録（一般ボランティア）

大きな事業では、事業の実施と同時にその事業を記録し、資料として次代に残す作業を怠ってはならない。そこで特に重要なのが写真やビデオを映像で記録を残すことである。百聞は一見にしかずとも言うが、長い文書の記録を読むよりも、たった1枚の写真が的確にその状況を伝えてくれる場合もある。ただ、記録写真といえども適切な場面の切り取りと、その撮影に対する高い技術と知識が必要である。

今回、島津宗隆さんと小暮強志さんに記録撮影等をお願いしたところ、快く引き受けていただき、本報告書の作成にあたって記録資料の提供に尽力いただいた。

## 8. 警備・交通整理・その他(ユネスコ協会成人部・一般)

事業が順調に運営されて行く陰には、見えない所で事業を支えてくださっている方々がいらっしゃる。この度の子どもキャンプにおいても、多くの方々が見えないところで協力してくださった。

キャンプ初日にJRの駅に到着した子ども達を出迎えに行ってくくださった方々。

送迎の乗用車やバスがキャンプ場に到着する際の誘導を行ってくださった方々。

夜間の野外炊事場の防犯や野獣からの被害防止のためのパトロールをしてくださった方々。

キャンプ場のゴミ拾いを行っていただいた女性会員の方々。

不足したキャンプ機材や材料調達のため、車を走らせていただいた方々。

まさに陰の力のお陰があったことをわれわれは忘れてはならない。





# ありがとうのページ

たくさんのご支援ご協力をいただき、感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

施設や後援、支援など

- ・ 山口県ふれあいパーク
- ・ 山口県教育委員会
- ・ 岩国市
- ・ 岩国市教育委員会
- ・ 学校法人藤谷学園 岩国南幼稚園
- ・ 岩国市観光振興課錦帯橋世界遺産推進室
- ・ 岩国市観光ガイドボランティア協会
- ・ 岩国市市民活動支援センター
- ・ 山口県東部ヤクルト販売(株)
- ・ 第43回ユネスコ子どもキャンプ実行委員・運営委員
- ・ 山口県内各ユネスコ協会
- ・ 看護師さん・養護教諭さん
- ・ 高水高等学校
- ・ Seeds(シーズ)
- ・ 由宇町婦人会
- ・ 由宇消防団
- ・ 正木商店
- ・ 岩国西ロータリークラブ
- ・ 柳井ふれあい森の会
- ・ ペリースクール
- ・ 遊巢の会
- ・ 山口県キャンプ協会
- ・ 吉武製材所



ご来賓(開会式)

- ・ 北川建次日本ユネスコ協会連盟理事
- ・ 泉屋孝山口県ユネスコ協会連盟副会長
- ・ 佐倉弘之甫岩国市教育長
- ・ 梅森雅広ふれあいパーク所長

写真・DVD編集など

- ・ 島津宗隆さん
- ・ 小暮強志さん

そして

- ・ 実行委員・スタッフのみなさん
- ・ 岩国ユネスコ協会のみなさん
- ・ お会いしたすべてのみなさん
- ・ 関わっていただいたすべてのみなさん

## ほんとうに

## ありがとうございました!!











みんなの笑顔が、この場所を輝かせる。











【編集後記】

「ああ、やってしまった」と何度繰り返して悔んだらう。奈良の子どもキャンプの帰り道、これから始まる一年間の、先のまったく見えないう、茫漠とした思いを今もありありと思い出すことができる。岩国がキャンプ開催地を引き受けたことによって、具体的にどのくらい困難を協会や自分自身に課すことになったか、それをはっきり自覚した奈良の視察だった。あれから本当にいろいろなことがあったものだ。

それでもとにかく、無事キャンプを終えることができ、こうして報告書の形で次代の皆さんに教訓を託せることをうれしく思います。本当にたくさんの人たちのお世話になり、ご迷惑をおかけしました。じっと我慢して見守り導いてくださった方々に深く感謝申し上げます。

そして、参加してくれた子どもたちへ。キャンプと仲間たちのことを忘れないで。いつの日か、ユニスコの旗のある地点を探し当ててください。

最後に、青年たちへ。

流した汗の量の分、君たちは確実に大きくたくましく成長しました。その瞬間瞬間に立ち会い、成長の軌跡をすぐ手の届く距離から見えていた、この一年間は本当に幸せでした。

成長する姿がみんなに希望を与えることを忘れないで。

(文責 宮本 剛)

平成 24 年(2012 年)12 月 12 日発行

発行元

岩国スネスコ協会

〒740-8585

岩国市今津町1丁目14-51

岩国市教育委員会生涯学習課内

TEL 0827-29-5210

✉ [gakushu@city.iwakuni.lg.jp](mailto:gakushu@city.iwakuni.lg.jp)



